

I N S T R U C T I O N B O O K



SEWLA

取扱説明書

JANOME

# 安全上のご注意

- ◆ ご使用前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- ◆ ここに示した注意事項は、ミシンを安全に正しくお使いいただき、お使いになる人やほかの人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。
- ◆ お読みになったあとは、お使いになる人がいつでも見られるところに保管してください。
- ◆ このミシンは、日本国内向け家庭用です。 FOR USE IN JAPAN ONLY.

<b>危害・損害の程度を表わす表示</b>	 <b>警告</b> この表示の欄は「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。	 <b>注意</b> この表示の欄は「傷害を負う可能性または物的損害が発生する可能性が想定される」内容です。
-----------------------	---	---

<b>本文中の図記号の意味</b>	 △記号は、気を付けていただきたい「注意」の内容です。図の中には具体的な注意内容を表示しています。(左図の場合は一般的な注意)
	 ⊘記号は、行ってはいけない「禁止」の内容です。図の中には具体的な禁止内容を表示しています。(左図の場合は分解禁止)
	 ●記号は、必ず実行していただく「強制」の内容です。図の中には具体的な指示内容を表示しています。(左図の場合は一般的な強制)

 <b>警告</b> 感電・火災の原因となります。
 <b>禁止</b> ストープ、アイロンの近くなど温度の高いところでは使用しないでください。 ミシンの使用温度は 5℃～35℃です。
 <b>禁止</b> スプレー製品などを使用した部屋や、引火しやすい物の近くでは使用しないでください。
 <b>禁止</b> 電源コードやフットコントローラーのコードについて、以下の行為は行わないでください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 傷つける</li> <li>● 加工する</li> <li>● はさみ込む</li> <li>● たばねる</li> <li>● 引っ張る</li> <li>● 無理に曲げたり、ねじったりする</li> <li>● 重い物をのせる</li> <li>● 高温部に近づける</li> </ul> 電源コード、フットコントローラーのコードおよびプラグが破損した場合は、使用しないでください。
 <b>必ず実行</b> 一般家庭用、交流電源 100V でご使用ください。
 <b>必ず実行</b> 電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。
 <b>必ず電源プラグを抜く</b> 以下のようなときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● ミシンのそばを離れるとき</li> <li>● ミシンを使用したあと</li> <li>● ミシン使用中に停電したとき</li> </ul>

 <b>注意</b> 感電・火災・けがの原因となります。
 <b>分解禁止</b> 分解はしないでください。
 <b>接触禁止</b> ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針・はずみ車・天びんなどすべての動いている部分に手を近づけないでください。
 <b>禁止</b> 曲がった針や先のつぶれた針は、ご使用にならないでください。

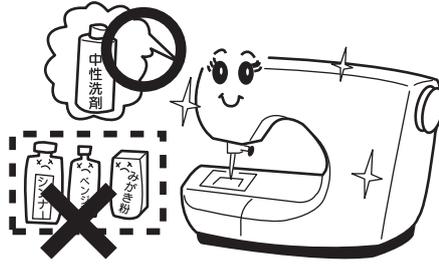
 <b>注意</b> 感電・火災・けがの原因となります。
 <b>禁止</b> めい途中に布を無理に引っ張ったり、押ししたりしないでください。
 <b>禁止</b> ミシンの通風口はふさがないようにください。
 <b>禁止</b> フットコントローラーの上に物をのせないでください。また、ご使用の際は、周辺に糸くずやほこりがないことを確認してください。
 <b>注意</b> お子様のご使用になるときや、お子様の近くでご使用されるときは、特に安全に注意してください。
 <b>必ず実行</b> ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手でミシンをささえてください。
 <b>必ず実行</b> プラグ受けに、糸くずやほこりがたまらないようにしてください。
 <b>必ず実行</b> 針および押さえは、確実に固定してください。また、押さえは、めいに合ったものをご使用ください。
 <b>必ず実行</b> 電源プラグを抜くときは、コードを引っ張らず電源プラグを持って抜いてください。
 <b>必ず実行</b> 以下のことを行うときは、電源スイッチを切ってください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 押さえ、アタッチメントを交換するとき</li> <li>● 上糸、下糸をセットするとき</li> </ul>
 <b>必ず電源プラグを抜く</b> 以下のことを行うときは、電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● ミシンのお手入れを行うとき</li> <li>● 針、針板を交換するとき</li> </ul>
 <b>必ず電源プラグを抜く</b> ミシンに以下の異常があるときは速やかに使用を停止し、まず電源スイッチを切り、電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店にて点検・修理・調整をお受けください。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 正常に作動しないとき</li> <li>● 水にぬれたとき</li> <li>● 落下などにより破損したとき</li> <li>● 異常な臭い・音がするとき</li> <li>● 電源コード・プラグ類が破損、劣化したとき</li> </ul>

# 目 次

◎お取り扱いについてのお願い .....	2	●ファスナー付け .....	30 ~ 32
◎各部のなまえ .....	3	●ギャザー .....	33
◎標準付属品と収納場所 .....	4 ~ 5	●ピンタック .....	33
●標準付属品 .....	4	●ボタン付け .....	34
●収納場所 (補助テーブル) .....	5	●かがりぬい .....	35 ~ 36
◎操作方法 .....	6 ~ 15	★トリコットぬいたち目かがり .....	35
●電源のつなぎ方 .....	6	★かがりぬい .....	35
★スタート/ストップボタンを使用する場合 .....	6	★厚物かがりぬい .....	36
★フットコントローラーを使用する場合 .....	6	★ニットステッチ .....	36
●操作ボタン .....	7 ~ 8	●ボタンホール .....	37 ~ 43
●速さの調節 .....	9	★ボタンホールの種類と用途 .....	37
★スピードコントロールつまみ .....	9	★スクエアボタンホール .....	38 ~ 40
★フットコントローラー .....	9	★ボタンホールの幅とあらかさのかえ方 .....	41
●画面の説明 .....	10	★片ラウンドボタンホール .....	42
●模様を選び方 .....	10	★キーホールボタンホール .....	42
●押さえ上げ .....	11	★芯入りボタンホール .....	43
●押さえ圧調節ダイヤル .....	11	●つくろいぬい (ダーニング) .....	44 ~ 45
●糸調子ダイヤル .....	12	●かんぬき止め .....	46
●送り歯ドロップつまみ .....	13	●アイレット .....	47
●送り調節ねじ (模様の形の調節) .....	13	●まつりぬい .....	48
●押さえの外し方、付け方 .....	14	●ゴムひも付け .....	49
●押さえホルダーの外し方、付け方 .....	14	●パッチワーク .....	49
●針の取りかえ方 .....	15	●スカラップ .....	50
●布に適した糸や針を選ぶ目安 .....	15	●アップリケ .....	50
◎ぬう前の準備 .....	16 ~ 21	●スモッキング .....	51
●下糸の準備 .....	16 ~ 18	●フリンジ .....	52
★ボビンの取り出し .....	16	●ファゴティング .....	52
★糸こまのセット .....	16	●クロスステッチ .....	53
★補助糸立て棒の使い方 .....	16	●密着模様ぬい .....	53
★下糸巻き .....	17	◎ミシンのお手入れ .....	54
★ボビンのセット .....	18	●かまと送り歯の掃除 .....	54
●上糸の準備 .....	19 ~ 20	●内がまと針板の組み付け .....	54
★上糸かけ .....	19	◎こんなときには .....	55 ~ 58
★糸通し .....	20	●ブザー音の種類 .....	55
●下糸を針板の上に引き出す場合 .....	21	●メッセージ画面が表示された場合 .....	55
◎ぬい方 .....	22 ~ 53	●ミシンの調子が悪いときの直し方 .....	56 ~ 58
●ぬい目の幅のかえ方 .....	22		
●ぬい目のあらかさのかえ方 .....	23		
●直線 (直線状模様) ぬい .....	24 ~ 29		
★直線ぬい (中針位置) .....	24 ~ 25		
★直線ぬい (左針位置) .....	26		
★自動返しぬい .....	26		
★自動止めぬい .....	27		
★三重ぬい .....	28		
★伸縮ぬい (ニットステッチ) .....	28		
★針板ガイドの使い方 .....	29		

## ◎お取り扱いについてのお願い

### ◇ご使用前に

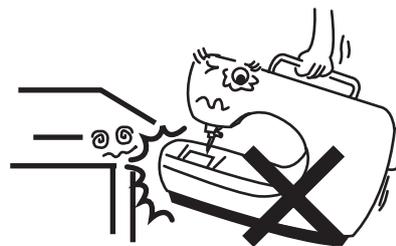


- ① むう布を汚さないようにするため、針板付近の油やほこりなどの汚れを、乾いたやわらかい布で十分にふき取ってください。  
試しぬいをして、布が汚れないことを確認してから使用してください。
- ② シンナー・ベンジン・ミガキ粉は絶対に使用しないでください。

### ◇いつまでもご愛用いただくために



- ① 長時間日光に当てないでください。
- ② 湿気やほこりの多いところは避けてください。

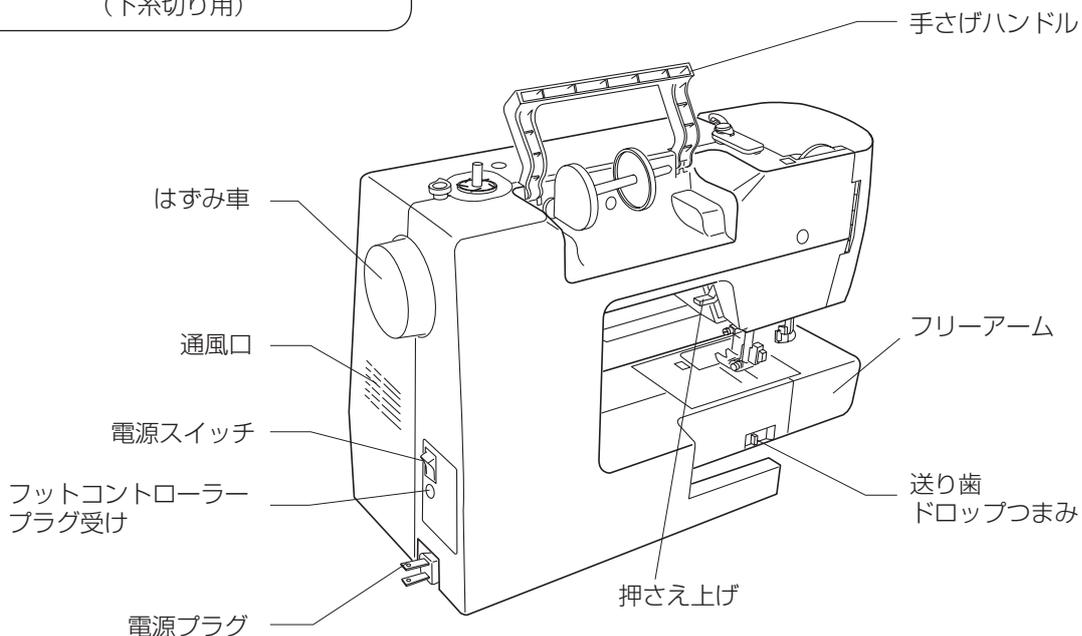
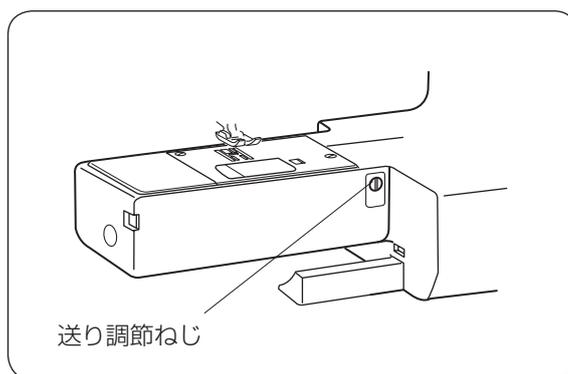
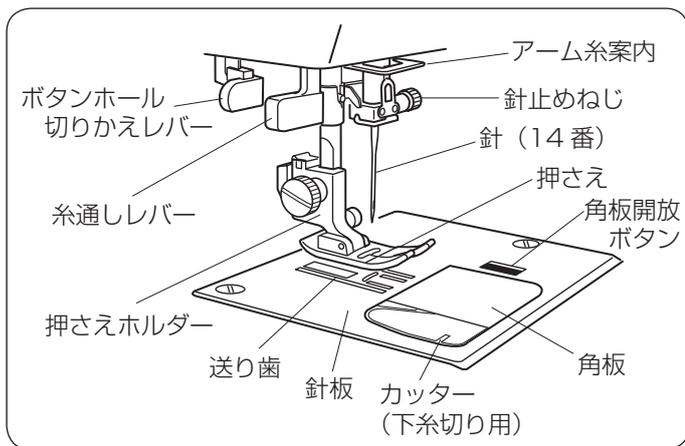
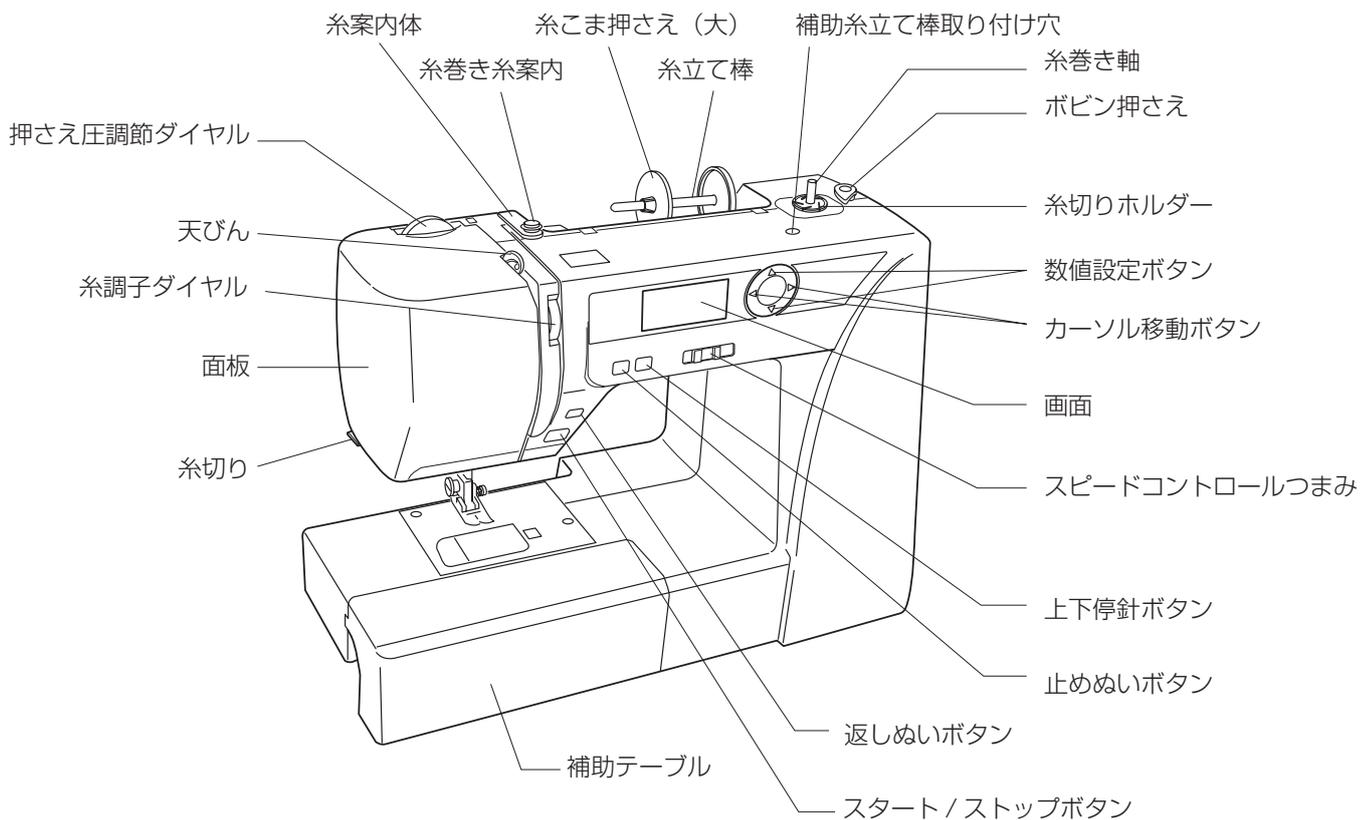


- ③ 落としたり、ぶつけたりするなど衝撃を与えないでください。  
ミシンを持ち運ぶときは、片手で手さげハンドルを持ち、必ずもう一方の手でミシンをささえてください。

### ◇修理・調整についてのご案内

万一不調になったり故障が生じたりしたときは、「◎こんなときには／●ミシンの調子が悪いときの直し方」(56～58ページ)によって点検・調整を行ってください。

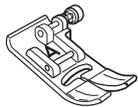
# ◎各部のなまえ



※製品改良のため、部品の形状や仕様を予告なく変更する場合がありますので、ご了承ください。

# ◎標準付属品と収納場所

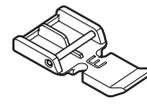
## ●標準付属品



A：基本押さえ  
〈24 ページ参照〉  
※ミシンの押さえホルダー  
に付いています。



C：たち目かがり押さえ  
〈35、36 ページ参照〉



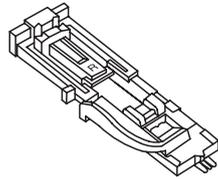
E：ファスナー押さえ  
〈30 ページ参照〉



F：サテン押さえ  
〈24、34、45、47、  
49～53 ページ参照〉



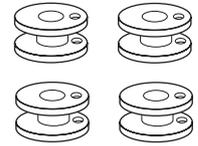
G：まつりぬい押さえ  
〈33、48 ページ参照〉



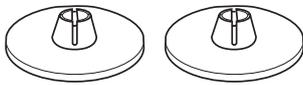
R：ボタンホール押さえ  
〈24、38 ページ参照〉



針 (HA X 1)  
〈15 ページ参照〉  
・14 番 …3 本



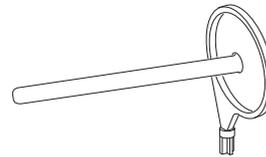
ボビン [4 個]  
〈16 ページ参照〉  
※1 個は、ミシンの内がま  
に入っています。



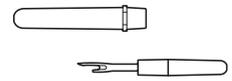
糸こま押さえ (大) [2 個]  
〈16 ページ参照〉  
※1 個は、ミシンの糸立て棒  
に付いています。



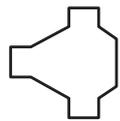
糸こま押さえ (小) [2 個]  
〈16 ページ参照〉



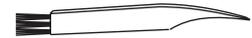
補助糸立て棒  
〈16 ページ参照〉



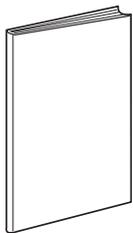
シームリッパー  
〈40 ページ参照〉



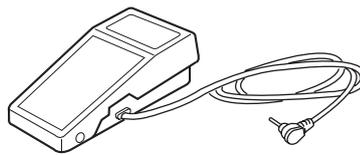
ドライバー



ミシンブラシ  
〈54 ページ参照〉



取扱説明書



フットコントローラー  
〈6、9 ページ参照〉  
※モデルによりオプションになります。

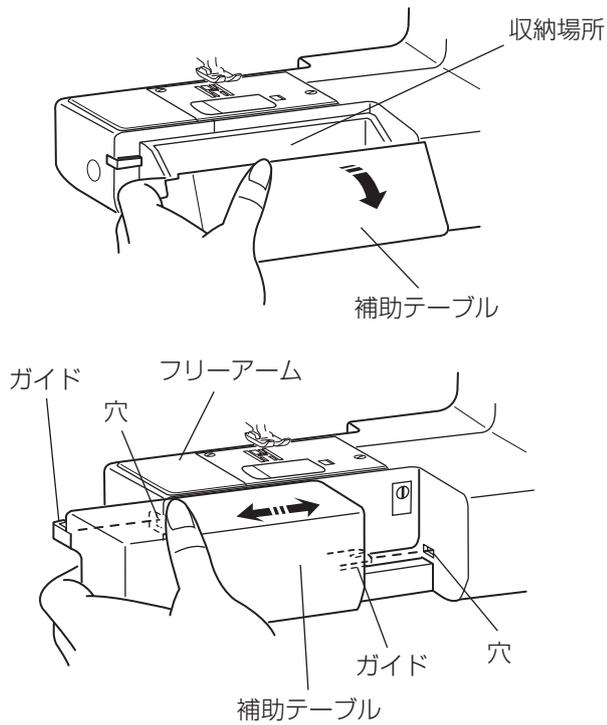
ミシンの使い方については、以下の QR コードもしくは URL から説明動画をご覧ください。



取扱説明動画

<https://youtube.com/playlist?list=PLs7aOpMYh2ZdNA7CmPYu4eLINGyXSgd3r>

## ●収納場所（補助テーブル）

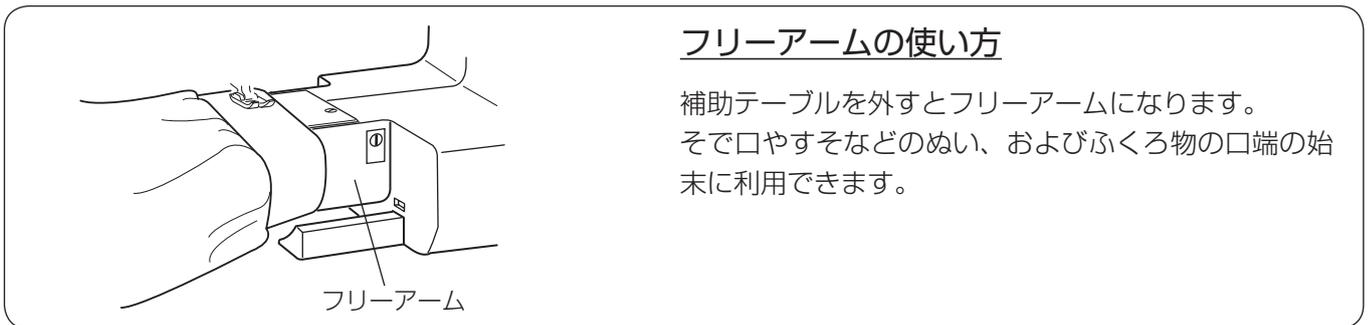


補助テーブルを開けると、押さえ等の小物が収納できます。

### 【補助テーブルの外し方・取り付け方】

補助テーブルは左側のくぼみに指をかけ、横に引いて外します。

取り付けるときは、フリーアームに合わせ、2カ所のガイドをミシン本体の穴に入れて取り付けます。



### フリーアームの使い方

補助テーブルを外すとフリーアームになります。そで口やすそなどのぬい、およびふくろ物の口端の始末に利用できます。

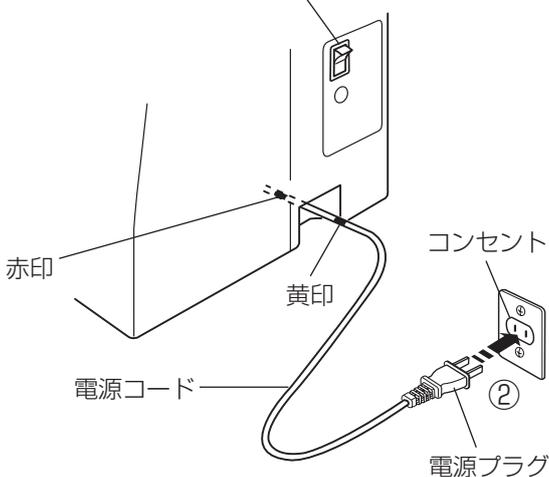
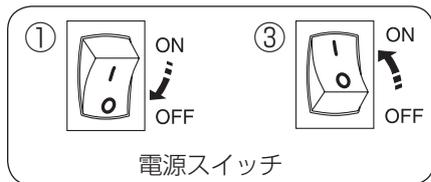
# ◎操作方法

## ●電源のつなぎ方

### ⚠ 警告

- 電源は、一般家庭用交流電源 100V でご使用ください。  
ミシンを使わないときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。  
感電・火災の原因となります。
- 電源プラグは定期的に乾いた布でふき、ほこりなどを取り除いてください。  
ほこりなどが付着していると湿気などにより絶縁不良となり火災の原因となります。

### ★スタート/ストップボタンを使用する場合



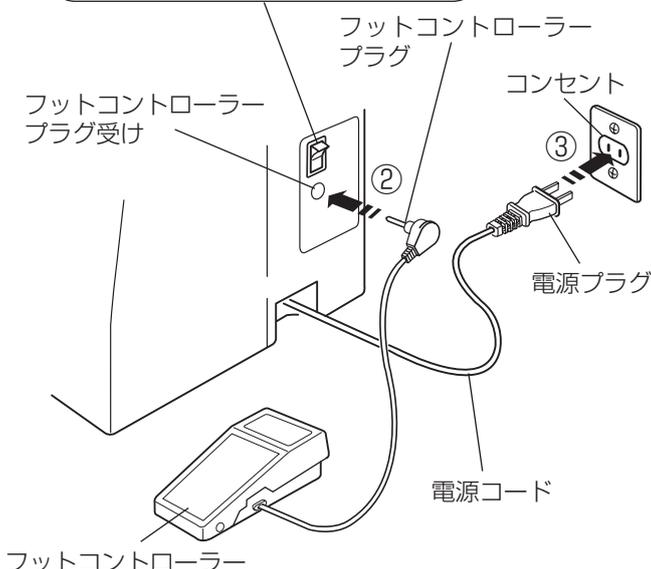
- ① 電源スイッチを「OFF」(切) にします。
- ② 電源コードを引き出し、電源プラグをコンセントに差し込みます。
- ③ 電源スイッチを「ON」(入) にします。

※ 電源コードは、赤印以上引き出さないでください。電源コードを引き出し過ぎると断線する恐れがあります。(黄印から赤印まで約 30 cm です。)

※ 電源コードをしまうときは、コードを少し引っ張ると自動で巻き取られます。電源プラグを持って取り出し口まで案内してください。

※ 電源スイッチを入れると、ミシンの準備のための初期設定が数秒間行われます。初期設定中は針などが動きますので、ミシンに触れないでください。

### ★フットコントローラーを使用する場合



※ フットコントローラーは、モデルによりオプションになります。

- ① 電源スイッチを「OFF」(切) にします。
- ② フットコントローラーのプラグをプラグ受けに差し込みます。
- ③ 電源コードを引き出し、電源プラグをコンセントに差し込みます。
- ④ 電源スイッチを「ON」(入) にします。

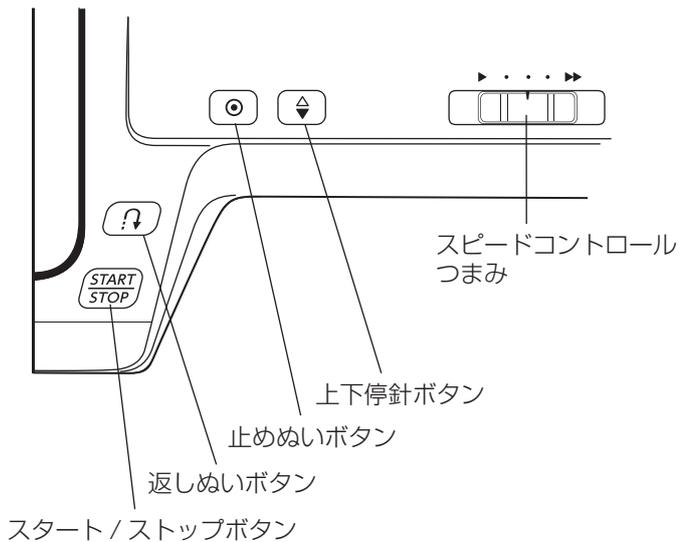
※ フットコントローラーを接続しているときは、スタート/ストップボタンは使用できません。

#### フットコントローラー表示 (点灯)



フットコントローラーを接続しているあいだは、画面にフットコントローラー表示が点灯します。

## ●操作ボタン



### 【スタート/ストップボタン】

ボタンを押すと、ミシンはゆっくり動きはじめてからスピードコントロールつまみでセットした速さになります。もう一度押すと停止します。(通常は針が上の位置で停止します。)

※ ボタンを押してスタートさせたとき、指をはなさないで押し続けているあいだは、ミシンは低速で動きます。ボタンを押して停止するときも、指をはなさないで押し続けているあいだは、ミシンは低速で動きます。

※ フットコントローラーを接続しているときは、スタート/ストップボタンは使用できません。

※ スタート/ストップボタンを押したときに、表示画面の押さえ表示が点滅した場合、押さえ上げをさげてからスタート/ストップボタンを押してください。

### 【返しぬいボタン】

■ 直線模様   およびジグザグ模様   の場合

《ミシン停止中》(フットコントローラーを接続していないときのみ)

ボタンを押しているあいだは低速で返しぬいを行い、指をはなすとミシンは停止します。

《ミシン運転中》

ボタンを押しているあいだは返しぬいを行い、指をはなすと前進ぬいにもどります。

### ■ そのほかの模様の場合

ぬい途中にボタンが押されると、その位置でほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミシンが停止します。

(停止してから押した場合、運転再開後、その位置でほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミシンが停止します。)

※ 模様     は、特殊な使い方になります。(26、27、44、46 ページ参照)

### 【止めぬいボタン】

■ 直線模様   およびジグザグ模様   の場合

ぬい途中にボタンが押されると、その位置でほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミシンが停止します。

(停止してから押した場合、運転再開後、その位置でほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミシンが停止します。)

### ■ そのほかの模様の場合

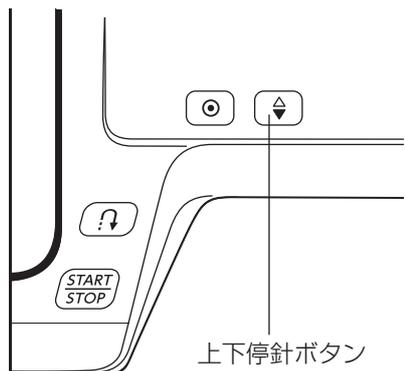
ぬい途中にボタンが押されると、ボタンが押されたときの模様を完成させたあと、ほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミシンが停止します。

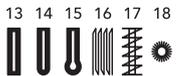
(停止してから押した場合、運転再開後、ボタンが押されたときの模様を完成させたあと、ほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミシンが停止します。)

※ ぬう前にボタンを押しておく、模様を1つだけぬったあと、ほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミシンが停止します。

## 【上下停針ボタン】

ミシンが停止しているときに、針の位置を上下に移動させることができます。



- ※ 針の位置を上位置に切りかえた状態でぬうと、ミシンを止めたとき針は上位置で止まり、針の位置を下位置に切りかえた状態でぬうと、ミシンを止めたとき針は下位置で止まります。（電源を入れたときは、上位置で止まる状態になっています。）
- ※ 下位置に切りかえておいても、模様  はぬい終わったときには、上位置で止まります。

## 【カーソル移動ボタン】

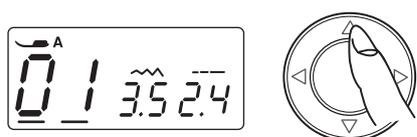
モード（模様、ぬい目の幅、ぬい目のあかさ）を設定するときには、◀ ▶ ボタンを押します。



- ◀ 左ボタンを押すと、カーソルが左へ移動します。
- ▶ 右ボタンを押すと、カーソルが右へ移動します。

## 【数値設定ボタン】

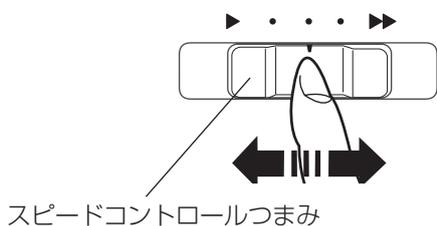
モードの数値を変更するときには、  ボタンを押します。



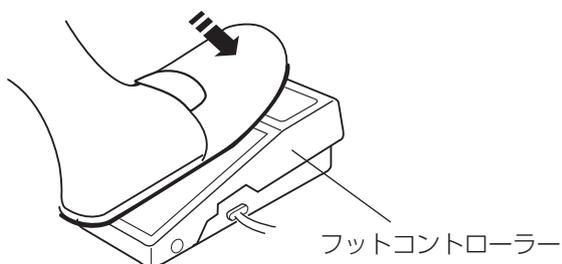
- △ ボタンを押すと、カーソルのあるモードの数値が大きくなります。
- ▽ ボタンを押すと、カーソルのあるモードの数値が小さくなります。

## ●速さの調節

### ★スピードコントロールつまみ



### ★フットコントローラー



ぬう速さは、スピードコントロールつまみやフットコントローラーで調節します。

スピードコントロールつまみは、スタート/ストップボタン使用時のぬう速さを調節できます。つまみの位置が右側になるほど速くなります。

- ※ フットコントローラー使用時は、フットコントローラーをいっぱいにふみ込んだときの最高速度を調節できます。
- ※ 最高速度は、模様のぬい目のあらさおよび模様の種類によって変化します。

※ フットコントローラーは、モデルによりオプションになります。

フットコントローラーのふみかげんで、ぬう速さが調節できます。

- ・深くふむ→速くなる。
- ・浅くふむ→遅くなる。

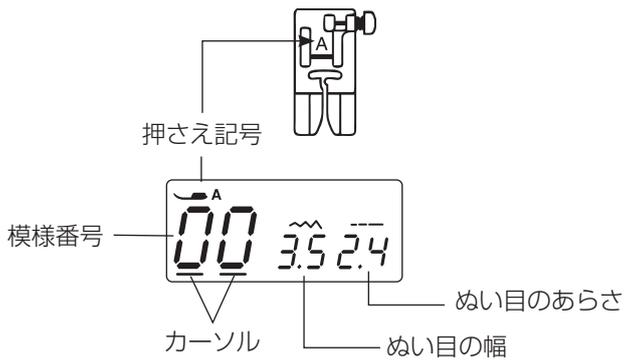
※ スピードコントロールつまみは、通常、いちばん右側の位置（最高速）にして、ふみかげんで調節してください。

細かいものをぬうときなどは低速側にしておくと、フットコントローラーをいっぱいにふみ込んでもスピードが出ないので使いやすくなります。

### ⚠ 注意

- ・フットコントローラーの上に物を置かないようにしてください。けがや故障の原因となります。
- ・フットコントローラーを使用する際は、周辺に糸くずやほこりがないことを確認してください。動作不良を起こし、けがや故障の原因となります。

## ●画面の説明

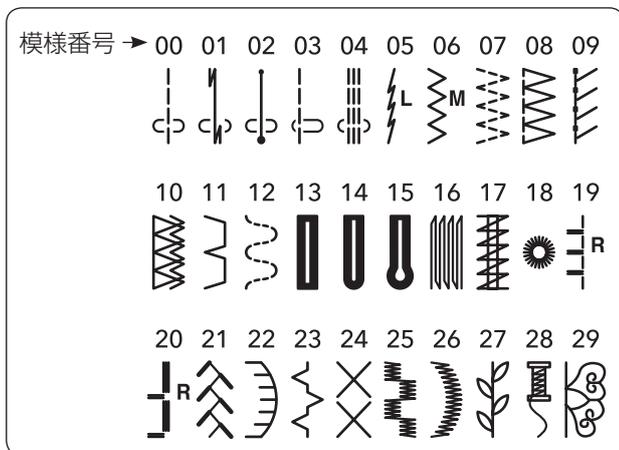


画面には、選ばれている模様の模様番号、その模様の代表的なぬいに使用される押さえの記号、その模様自動的に設定されている模様のぬい目の幅とあかさの値、およびカーソルが表示されています。

カーソルの表示されているモード（模様、ぬい目の幅、

ぬい目のあかさ）が  $\Delta$  ボタンで設定できます。

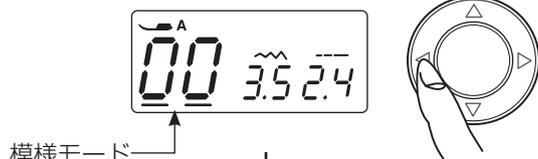
## ●模様の選び方



$\Delta$  ボタンを押して、ぬいたい模様の番号を選びます。

①

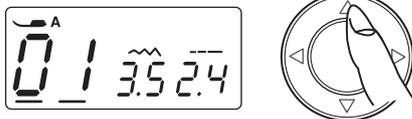
①  $\triangleleft$   $\triangleright$  ボタンで模様モードを選びます。



模様モード

②

② カーソルが2つあるときに、 $\Delta$  ボタンを押すと、一の位と十の位の数値が変更できます。



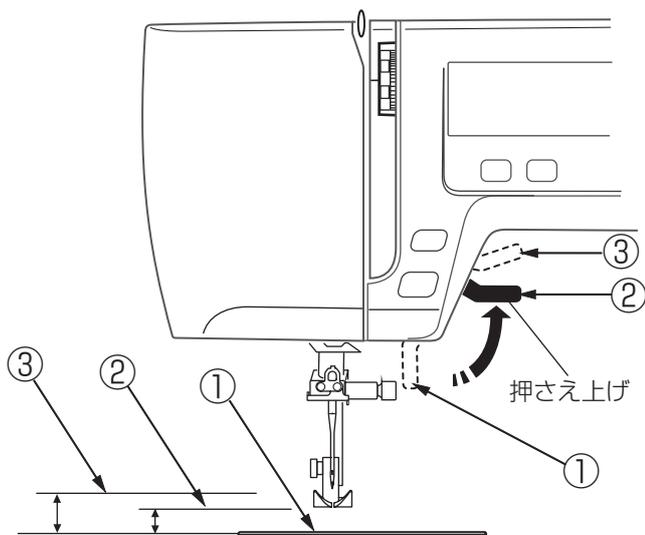
③

③  $\triangleleft$   $\triangleright$  ボタンの  $\triangleleft$  ボタンを押して、カーソルを1つにして、 $\Delta$  ボタンを押すと、十の位の数値が変更できます。



※ ぬい目の幅、ぬい目のあかさの変更は、22、23ページをご覧ください。

## ●押さえ上げ



押さえ上げで、押さえのあげさげを行います。  
普通にあげた位置よりさらに高くあげることができ、厚い布を入れるときなどに利用できます。

- ① さげた位置  
ぬうときや糸通しを使って針に糸を通すときなど
- ② 普通にあげた位置  
布のセットや取り出し、上糸かけ、押さえの交換のときなど
- ③ さらにあげた位置（固定することはできません。）  
厚い布を入れるときなど

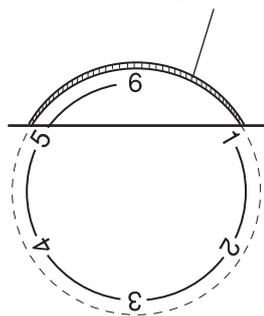
※ 押さえ上げをさげないでミシンをスタートさせようとすると安全装置がはたらいでミシンがスタートできないようになっています。  
このとき画面の押さえ表示が点滅します。  
押さえ上げをさげてスタートさせてください。

押さえ表示（点滅）

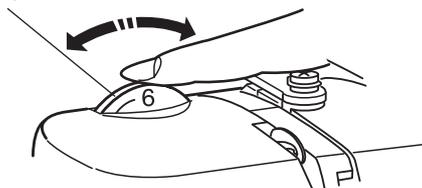


## ●押さえ圧調節ダイヤル

押さえ圧調節ダイヤル



押さえ圧調節ダイヤル



布地の厚さや特殊なぬい方によって、押さえ圧調節ダイヤルをまわして押さえ圧を調節します。  
小さな数字ほど押さえ圧は弱くなります。

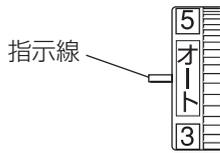
- ・薄物地は「1」～「3」
- ・普通地は「3」～「6」
- ・厚物地は「5」～「6」

を目安に合わせます。

また、伸縮性の布地をぬうときやアップリケなどぬいしる部分が重なり合うものをカーブしてぬうときなど、ぬいずれしやすい場合は弱めの「1」～「3」に合わせます。

## ●糸調子ダイヤル

【糸調子ダイヤル】



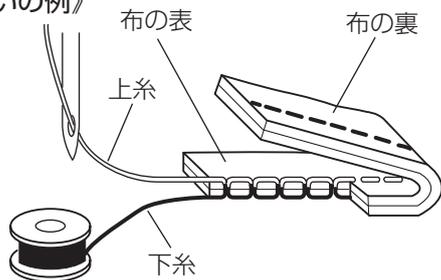
通常は、糸調子ダイヤルの「オート」を指示線に合わせると、上糸と下糸がバランスよくぬえるように自動セットされます。

糸や布の種類などによって「オート」の位置で糸調子のバランスがとれない場合や、特殊なぬい方をする模様の場合は糸調子ダイヤルで調節します。

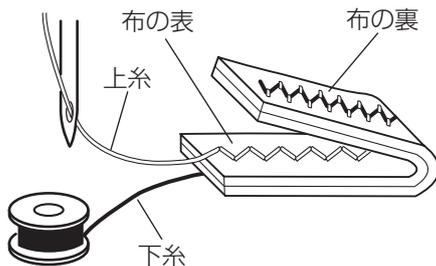
※ 糸調子が正しく調節されていないと、ぬい目がきたなくなったり、布にしわがよったり、糸が切れたりします。

### 【バランスのとれた糸調子】

《直線ぬいの例》



《ジグザグぬいの例》



### 【バランスのとれた糸調子】

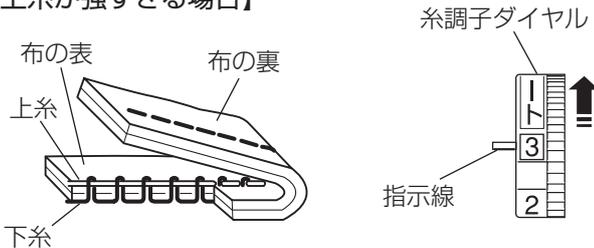
直線ぬいのときは、上糸と下糸が布のほぼ中央でまじわります。

ジグザグぬいのときは、布の裏側に上糸が少し出るくらいになります。

糸調子ダイヤルをまわすと、糸調子は下記のように変化します。

- 数字を小さくすると上糸の調子が弱くなる
- 数字を大きくすると上糸の調子が強くなる

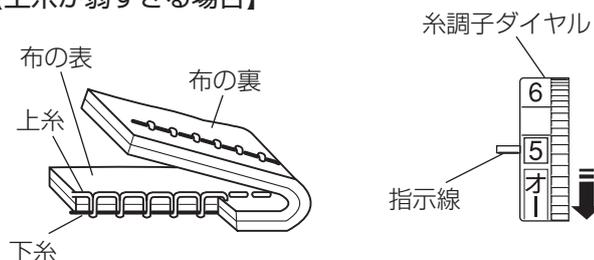
### 【上糸が強すぎる場合】



### 【上糸が強すぎる場合の調節】

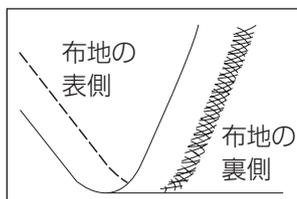
上糸が強すぎると、下糸が布の表に引き出されます。糸調子ダイヤルをまわして、小さな数字を指示線に合わせます。

### 【上糸が弱すぎる場合】



### 【上糸が弱すぎる場合の調節】

上糸が弱すぎると、上糸が布の裏に引き出されます。糸調子ダイヤルをまわして、大きな数字を指示線に合わせます。



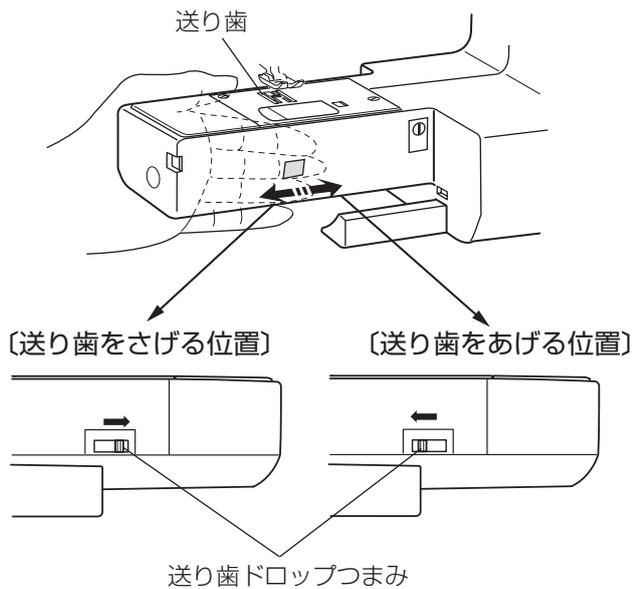
### 布地の裏がタオル地のような場合

図のように布地の表側は普通にぬえて、裏側がタオル地のようなになるのは、上糸の糸調子が弱い、上糸のかけ方がまちがっています。

上記で上糸を調節するか、上糸を正しくかけ直してください。

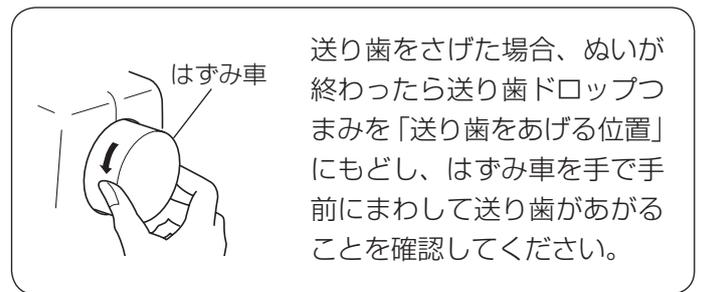
上糸のかけ方は「●上糸の準備／★上糸かけ」(19 ページ) をごらんください。

## ●送り歯ドロップつまみ

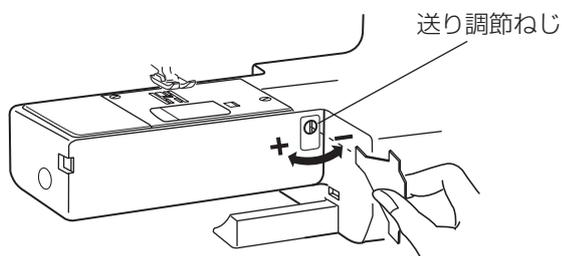


送り歯ドロップつまみで送り歯を常時さげた状態にし、布送り機能をなしにすることができます。ボタン付けなどを行うときに使用します。

※ 送り歯をさげたときは、使用する模様のぬい目のあらさをぬい目のあらさモードで最小値に設定してください。

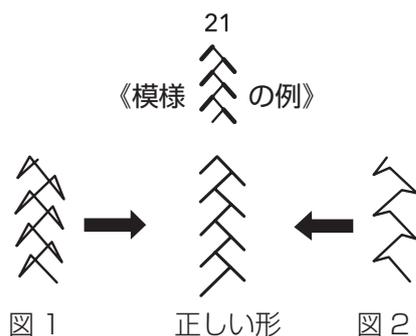


## ●送り調節ねじ（模様の形の調節）



布の種類、厚さ、ぬいの速さなどによっては模様の形がくずれて正しい形でぬえない場合があります。実際にぬうときと同じ条件で試しぬいをし、模様の形がくずれている場合は送り調節ねじで調節します。

補助テーブルを外すと調節ができます。



### 【模様の形の整え方】

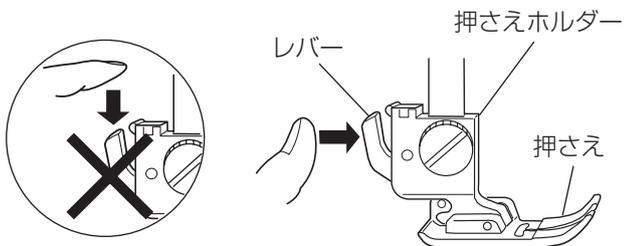
図1のように模様がつまっているときは、送り調節ねじを「+」方向にまわします。

図2のように模様が伸びているときは、送り調節ねじを「-」方向にまわします。

## ●押さえの外し方、付け方

### ⚠ 注意

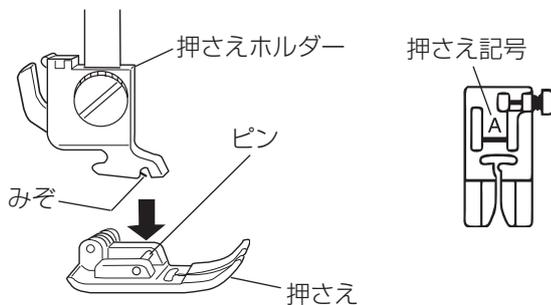
- ・ 押さえの取り外し・取り付けは、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。
- ・ 押さえは模様にあったものをご使用ください。押さえが合っていないと針が押さえに当たり、けがの原因となります。



### 【押さえの外し方】

- ① はずみ車を手で手前にまわして針をあげ、押さえ上げをあげます。
- ② 押さえホルダーのレバーをうしろ側から手前に押し、押さえを外します。

※ レバーを上から押さないでください。故障の原因となります。



### 【押さえの付け方】

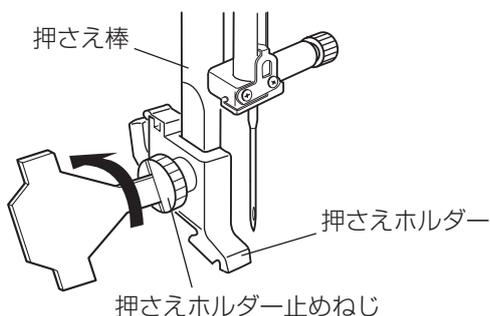
押さえのピンを押さえホルダーのみぞの真下において、押さえ上げをゆっくりさげます。

※ 押さえは、模様にあったものを使用してください。押さえには記号が付いています。

## ●押さえホルダーの外し方、付け方

### ⚠ 注意

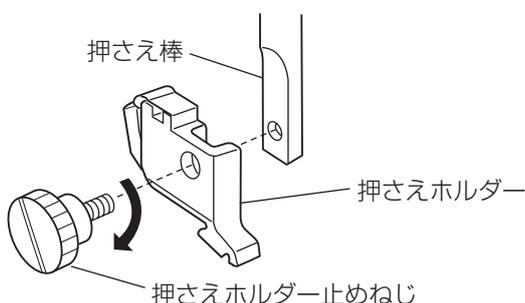
押さえホルダーの取り外し・取り付けは、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。



※ 押さえホルダーは、ミシンのお手入れのときなどに外します。

### 【押さえホルダーの外し方】

- ① はずみ車を手で手前にまわして針をあげ、押さえ上げをあげます。
- ② 押さえホルダー止めねじを左にまわして外し、押さえホルダーを外します。



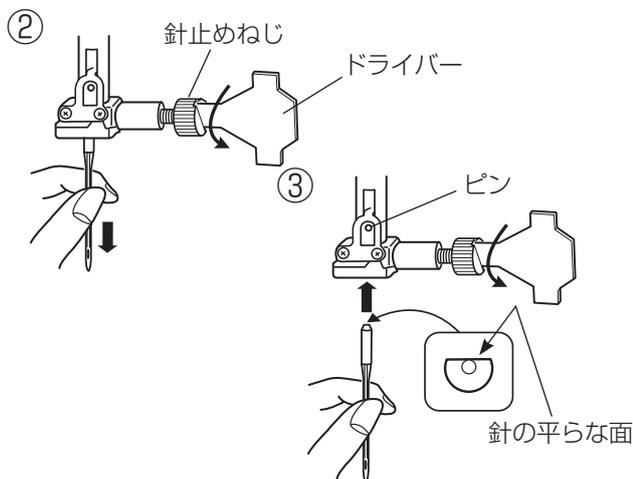
### 【押さえホルダーの付け方】

押さえ棒に押さえホルダーを取り付け、押さえホルダー止めねじをドライバーで右にまわしてしっかりと固定します。

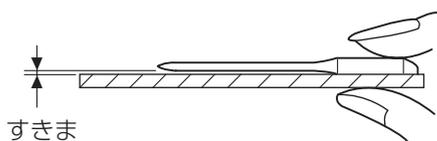
## ●針の取りかえ方

### ⚠ 注意

針の交換は、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。



- ① はずみ車を手で手前にまわして針をあげ、押さえ上げをさげます。
  - ② 針止めねじを手前に1～2回まわしてゆるめ、針を外します。
  - ③ 取り付けは、針の平らな面を向こう側に向けてピンに当たるまで差し込み、針止めねじをドライバーでしっかりしめます。
- ※ 正しく針が付けられていないと、糸通しができないだけでなく、針がゆるんで針折れして危険です。



### 【針の調べ方】

針の平らな面を平らな物（針板など）に置いたとき、すきまが針先まで均等に見えるのが良い針です。針先が曲がったり、つぶれているものは使わないようにしてください。

## ●布に適した糸や針を選ぶ目安

※ 針は必ず、家庭用ミシン針（HA × 1）を使用してください。

布の種類		糸	針
うすい布	ローン ジョーゼット トリコット	ポリエステル 90 番	9 番～ 11 番 または ジャンメブルー針 (オプション)
		綿糸 60 番 ポリエステル、ナイロン 50 番～ 90 番	11 番～ 14 番 または ジャンメブルー針 (オプション)
普通の布	シーチング ジャージー 一般ウール地	綿糸 50 番	14 番
厚い布	デニム ツイード コート地	綿糸 40 番～ 50 番 ポリエステル 40 番～ 50 番	14 番～ 16 番
		ポリエステル 30 番 綿糸 30 番	16 番

※ 一般的に、うすい布には細い糸と細い針を、厚い布には太い糸と太い針を使用します。

この表を目安に糸と針を選び、試しぬいをしてください。

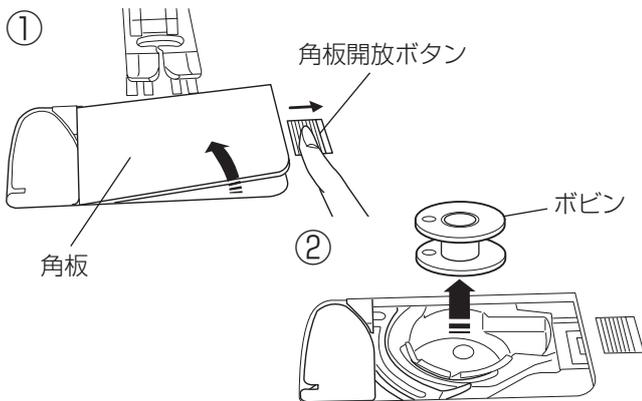
※ 通常は、上糸と下糸は同じものを使用してください。

※ 伸縮性のある布（ジャージー、トリコットなど）で目とびしやすい布地は、オプションのジャンメブルー針〔11 番〕（柄の部分が青色の針）を使用すると、目とびの防止効果があります。

## ◎ぬう前の準備

### ●下糸の準備

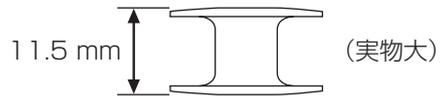
#### ★ボビンの取り出し



- ① 押さえ上げをあげ、角板開放ボタンを右へずらして角板を外します。
- ② ボビンを取り出します。

#### お願い

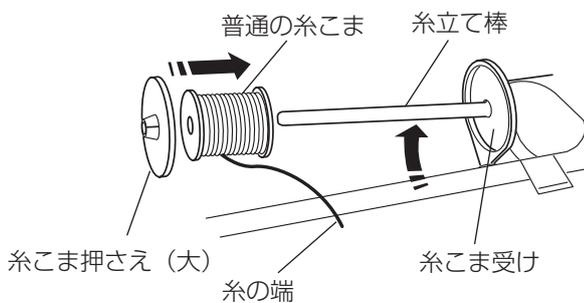
- ボビンは当社専用のプラスチックボビンを使用してください。(お買い上げの販売店へご相談ください。)



- ナイロン透明糸およびメタリック糸を、下糸に使用しないでください。
- 金属ボビンは使用しないでください。かまにマグネットが使用されているため、糸調子の不具合や、故障の原因となります。

#### ★糸こまのセット

##### 《普通の糸こまの場合》

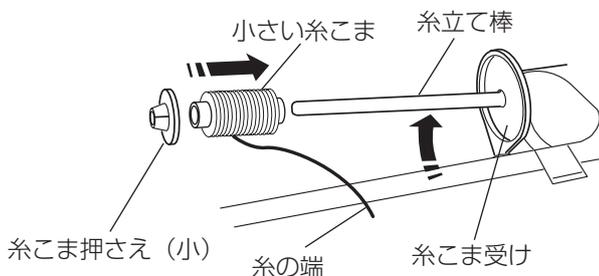


糸立て棒を軽くおこし、糸の端が糸こまの下から手前に出るように糸こまを向けて糸立て棒に入れ、糸こま受けにつき当てます。

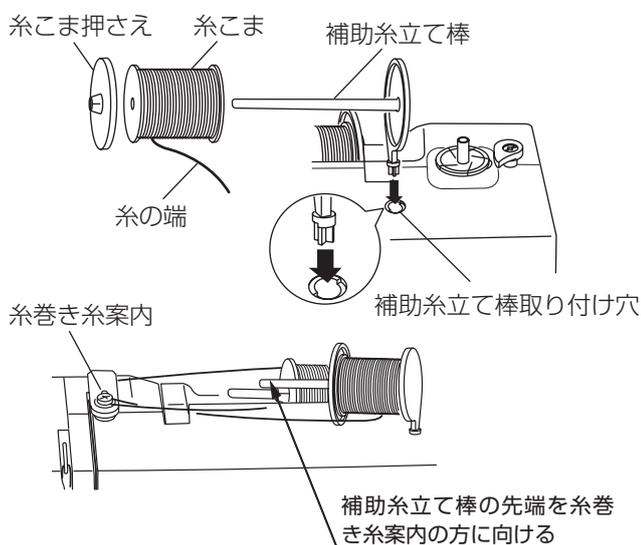
糸こま押さえを押しつけて、糸こまを押さえます。

- ※ 普通の糸こまには糸こま押さえ (大) を、小さい糸こまには糸こま押さえ (小) を使います。

##### 《小さい糸こまの場合》



#### ★補助糸立て棒の使い方



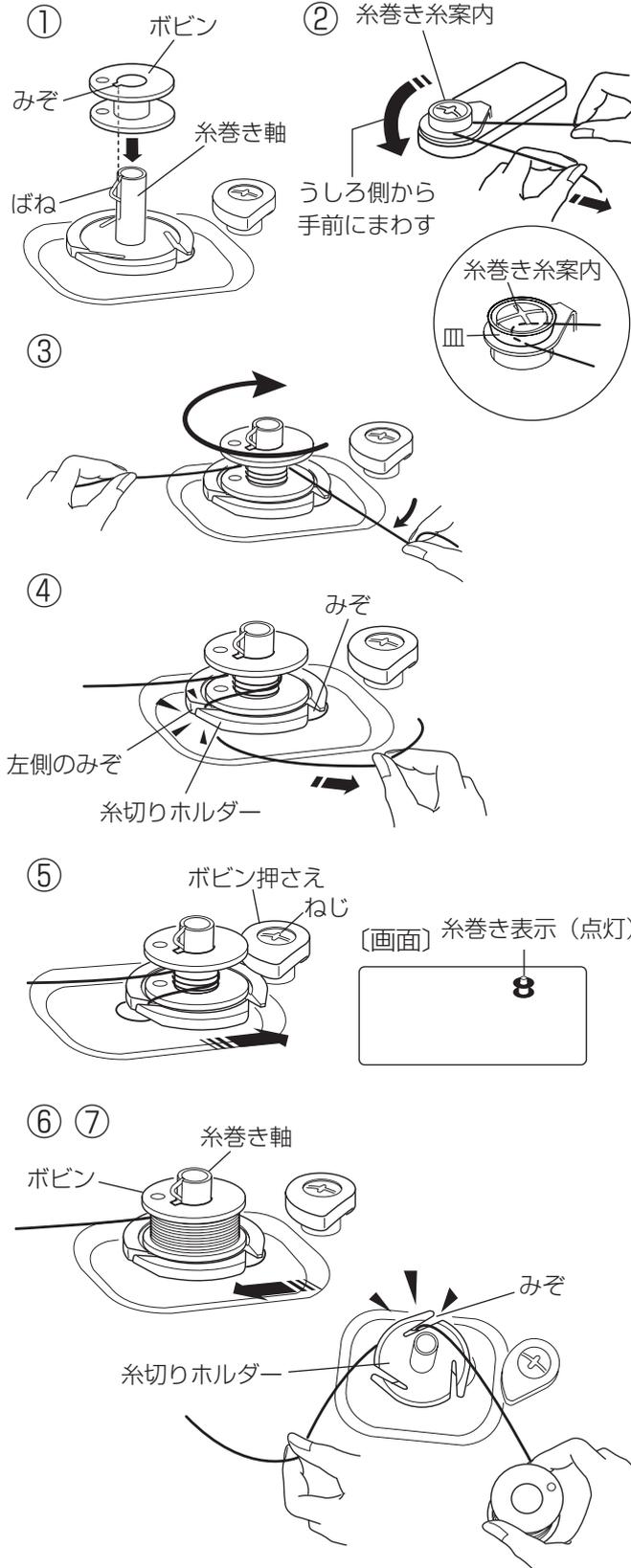
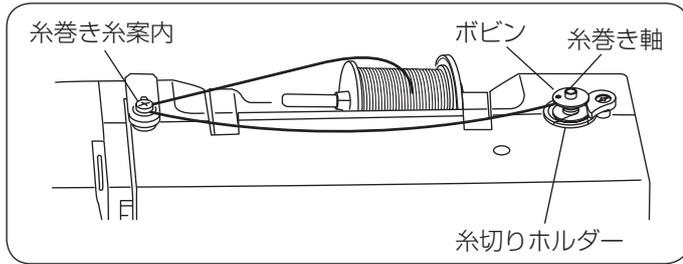
付属の補助糸立て棒は、ミシンに付いている糸立て棒に糸こまをセットした状態のまま別の糸こまで糸巻きをするときに使います。

補助糸立て棒の先端を糸巻き糸案内の方に向けて、補助糸立て棒取り付け穴に差し込みます。(正しい位置に差し込んだ場合、補助糸立て棒は回転しないで固定されます。)

糸こまの向きや固定方法は、上記「★糸こまのセット」と同じです。

- ※ ミシンカバーなどに収納するときは、補助糸立て棒は外しておいてください。

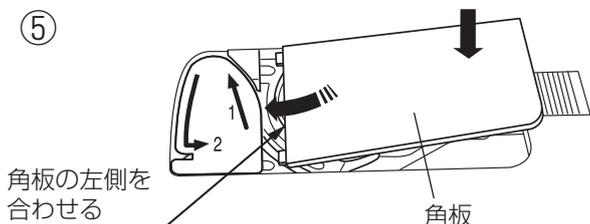
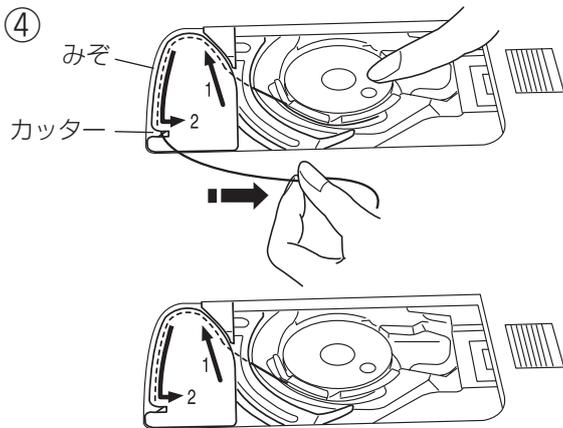
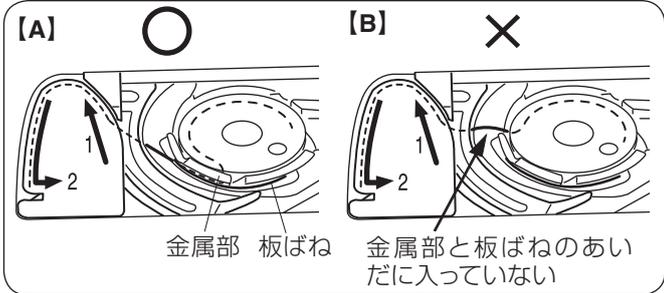
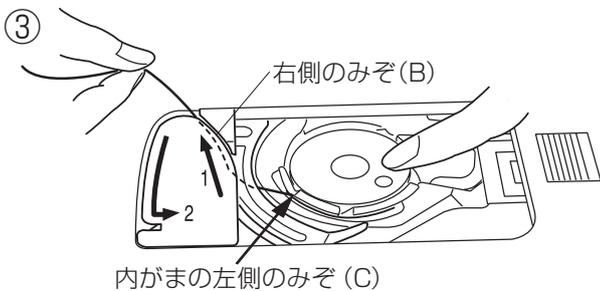
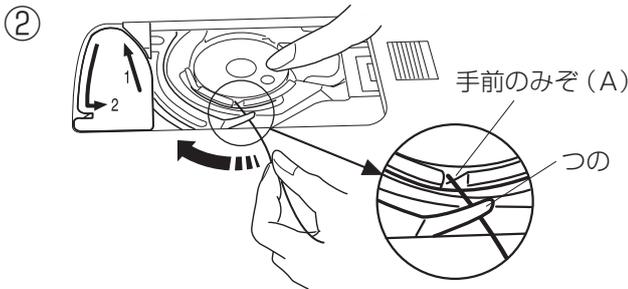
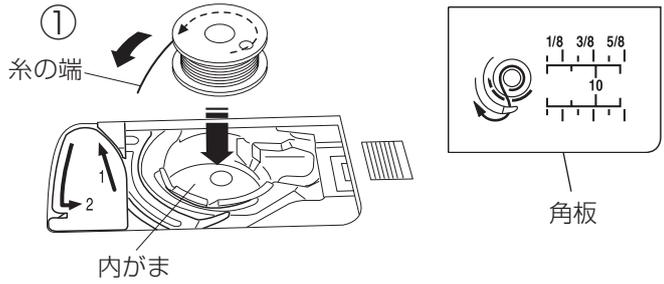
## ★下糸巻き



- ※ 糸巻きのときは、スピードコントロールつまみを最高速（いちばん右側の位置）にセットしてください。
- ※ ナイロン透明糸およびメタリック糸は、下糸に使用しないでください。

- ① ボビンのみぞと糸巻き軸のばねを合わせて、ボビンを糸巻き軸に差し込みます。
- ② 糸こま側の糸を押さえ、糸巻き糸案内にうしろ側から手前にまわして矢印方向に引いてかけます。  
※ 糸を確実に皿の下に入れてください。糸が皿の下に確実に入っていないと、均等に糸を巻くことができません。
- ③ 糸巻き糸案内にかけた糸を左手で押さえ、糸の端を右手でボビンに右まわり（時計方向）に4～5回巻きます。
- ④ ボビンに4～5回巻いた糸を、ボビンの下にある糸切りホルダーの左側のみぞに入れ、右側に引いて糸を切ります。  
※ みぞは3カ所あり、中にカッターが内蔵されています。
- ⑤ ボビンをボビン押さえの方に押しつけます。  
※ 画面の糸巻き表示が点灯します。  
※ ボビン押さえのねじはさわらないでください。部品が外れることがあります。  
※ 糸を巻く前に、糸巻き軸などボビン以外の箇所に糸が巻き付いていないことを確認してください。  
※ 糸巻き糸案内とボビンのあいだの糸のたるみを少なくしてください。
- ⑥ スタート/ストップボタンを押してミシンをスタートさせます。  
巻き終わると自動的にボビンの回転が止まるので、ボビンの回転が止まったらミシンを停止します。  
※ ミシンを停止しないで放置しておくと、安全のためにミシンがスタートしてから約90秒で自動停止します。
- ⑦ ボビンを左にもどし、糸巻き軸からボビンを外します。両手で糸を持ち、糸切りホルダーのみぞに糸を入れて引き、カッターで糸を切ります。（3カ所のみぞの切りやすい場所を利用してください。）  
※ ボビン（糸巻き軸）は、必ずミシンを停止してからもどしてください。

## ★ボビンのセット



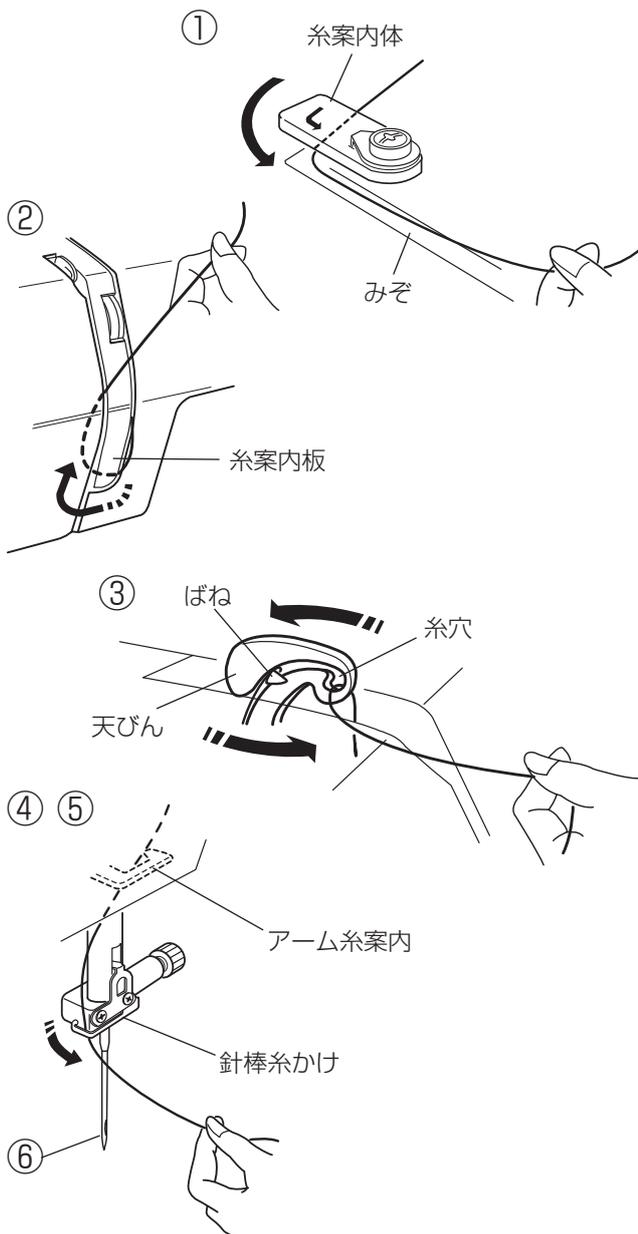
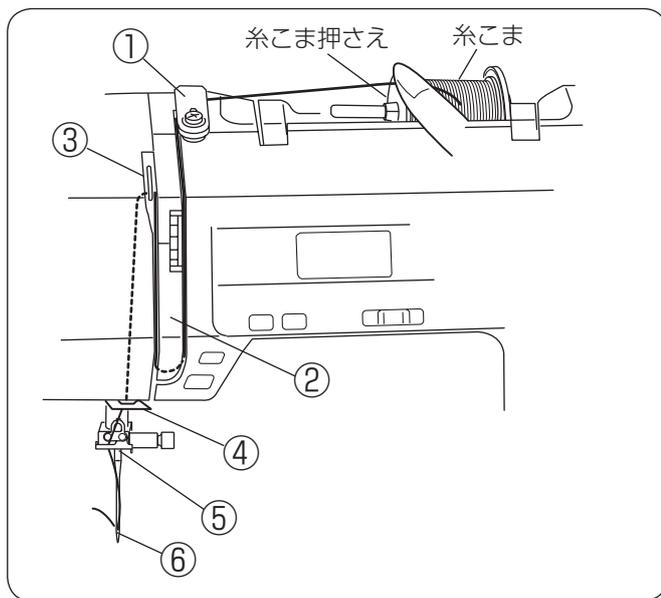
## ⚠ 注意

ボビンを内がまにセットするときは、必ず電源スイッチを切ってください。けがの原因となります。

- ① 糸の端がボビンのうしろ側から矢印方向に出るように向け（糸が左巻き）、ボビンを内がまに入れます。  
※ ボビンから引き出される糸の状態の図が、角板に表示されています。
- ② ボビンが回転しないよう、ボビンを右手で軽く押さえます。  
糸の端を左手で持ち、内がまの手前のみぞにかけ、さらに手前のつの下をくぐらせます。  
※ 各部に糸を確実にかけるため、下記の手順④が終了するまで、右手でボビンを押さえた状態で行ってください。
- ③ つの下をくぐらせた糸を矢印 1 の方向に引きあげて矢印 1 の右側のみぞ (B) に入れます。  
糸が内がまの左側のみぞ (C) から出ているのを確認してください。  
※ 手順②で、内がまの手前のみぞ (A) に糸がかかっていない場合、内がまの板ばねのあいだに糸が入らず、ボビンから直接矢印 1 の右側のみぞに通ってしまいます。(左図、【B】参照)  
その場合は手順②からかけ直します。  
※ 糸が正しくかけられていないと、ぬい不良の原因となります。
- ④ そのままみぞにそって矢印 2 の方向に糸を通します。  
下側のカッターに糸をかけ、右に水平に引いて切ります。
- ⑤ 角板を左側から合わせて取り付けます。  
※ 通常は、下糸はこの状態のままでぬい始めることができます。  
ぬい始めに下糸を針板の上に引き出す必要があるときは、「●下糸を針板の上に引き出す場合」(21 ページ)をごらんください。

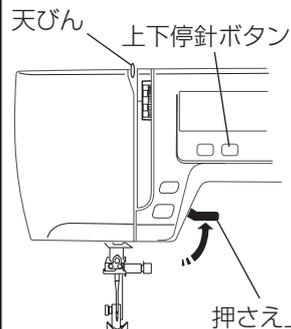
## ●上糸の準備

### ★上糸かけ



※ はじめに、下記の【準備】を必ず行ってください。  
ぬい不良の原因となります。

#### 【準備】



1. 押さえ上げをあげます。
2. 電源スイッチを「ON」(入)にします。上下停針ボタンを押して針と天びんをあげます。
3. 電源スイッチを「OFF」(切)にします。

#### ⚠ 注意

上糸をかけるときは、電源スイッチを切ってください。  
けがの原因となります。

※ 上糸かけは、必ず押さえ上げをあげて行ってください。  
押さえ上げがあがっていないと糸が正しくかけられず、  
ぬい不良の原因となります。

※ 上糸かけは、糸を各部に確実にかけるために、常に右手で糸こま側の糸を押さえながら、左手で強めに引いてかけてください。

※ 糸こまのセット方法は、「●下糸の準備／★糸こまのセット」(16 ページ) をごらんください。

① 糸こまから糸を引き出し、糸案内体の下に巻きつけるようにかけ、みぞにそって手前に糸を引き出します。

② 糸案内板の下をまわし、左上に引きあげます。

③ 天びんの右からうしろへまわして手前に引き、ばねを通過させて糸穴に入れ、まっすぐ下におろします。

※ 糸がばねを通過し、天びんの糸穴まで入っていることを確認してください。

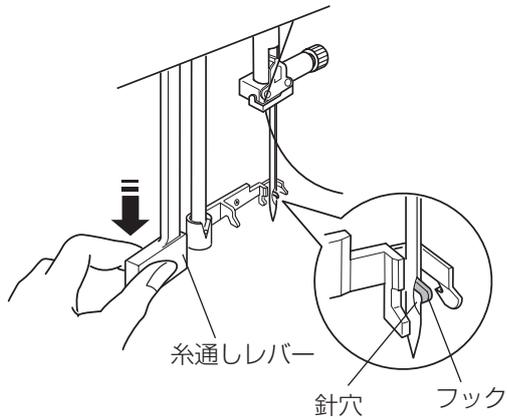
④ アーム糸案内に右からかけます。

⑤ 針棒糸かけに左からかけます。

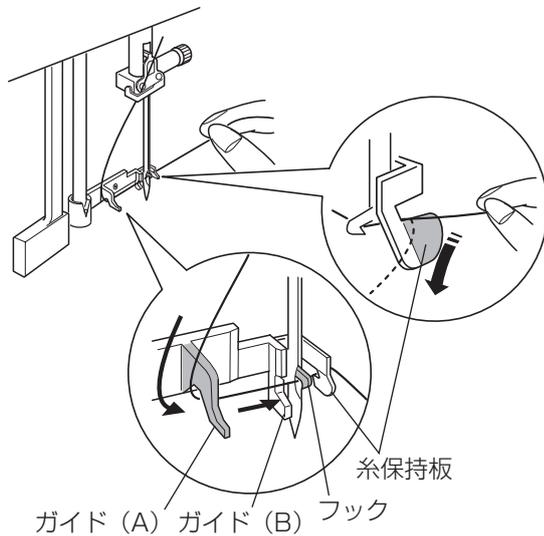
⑥ 糸通しを使って針に糸を通します。  
糸通しの使い方は、「★糸通し」(20 ページ) をごらんください。

## ★糸通し

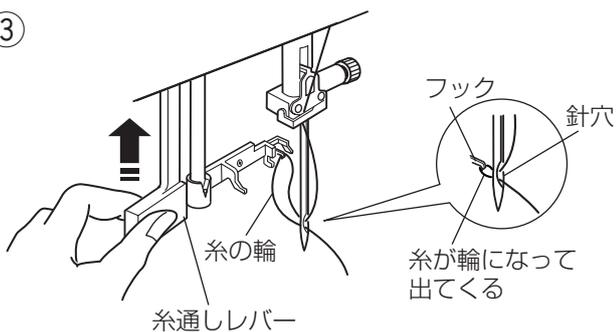
①



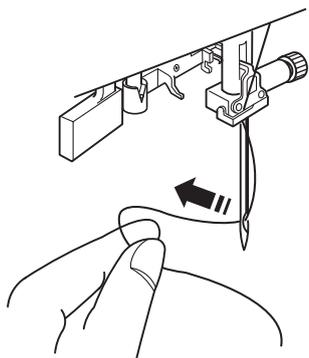
②



③



④



### ⚠ 注意

糸通しを使うときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。けがの原因となります。

※ 針は家庭用ミシン針 (HA × 1) の 11 番～16 番、糸は 50 番～90 番が使用できます。

① 上糸かけのときに上下停針ボタンで針をあげた状態のまま、押さえ上げをさげます。糸通しレバーを止まるまでさげます。

※ 糸通しレバーが止まった位置で、針穴にフックが入っています。

② 糸をガイド (A) の左側から下にまわし、ガイド (B) のくぼみに下からそわせながら糸保持板に下からかけ、手前にたらししておきます。

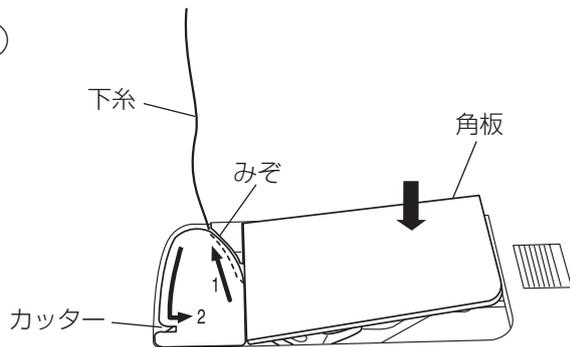
※ 糸はフックの下を通ります。

③ 糸通しレバーを静かにもどすと、糸の輪が引きあげられます。

④ 糸の輪を糸通しから外し、糸の輪を向こう側に引いて、針穴から糸の端を引き出します。

## ●下糸を針板の上に引き出す場合

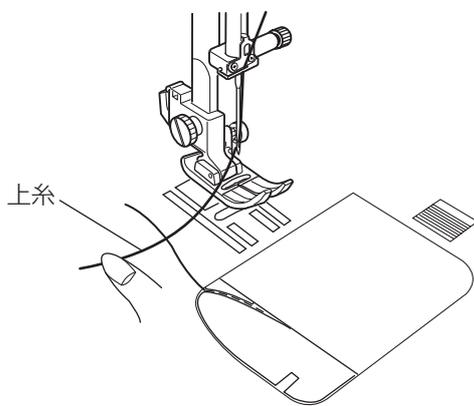
①



ギャザーやスモッキングなどをぬう場合のように、ぬい始めの下糸を長くする必要のあるときだけ、下記手順①～④の方法で下糸を針板の上に引き出してください。

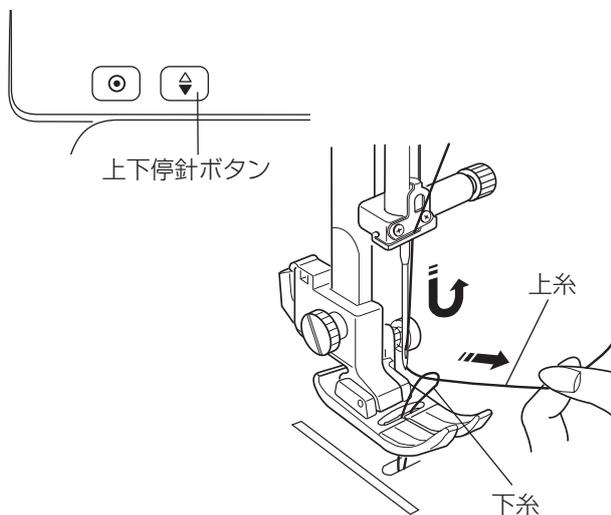
① 「●下糸の準備／★ボビンのセット」手順①～③（18ページ）と同じ方法で下糸を矢印1の方向に引きあげてみぞに入れたら、そのまま約10 cm 向こう側に引き出しておき、角板を取り付けます。  
（糸は、下側にあるカッターで切らないでください。）

②



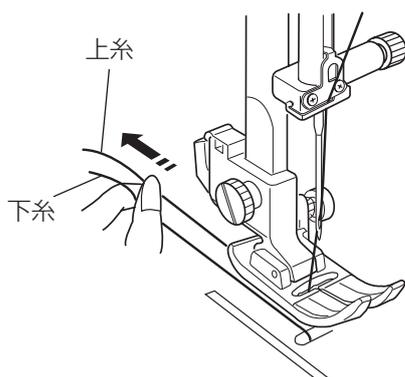
② 針に上糸を通し、押さえ上げをあげた状態で、上糸の端を指で押さえておきます。

③



③ 電源スイッチを入れ、上下停針ボタンを押して針を上げ、もう一度押して針を下げます。  
上糸を軽く引くと下糸の輪が引き出されます。

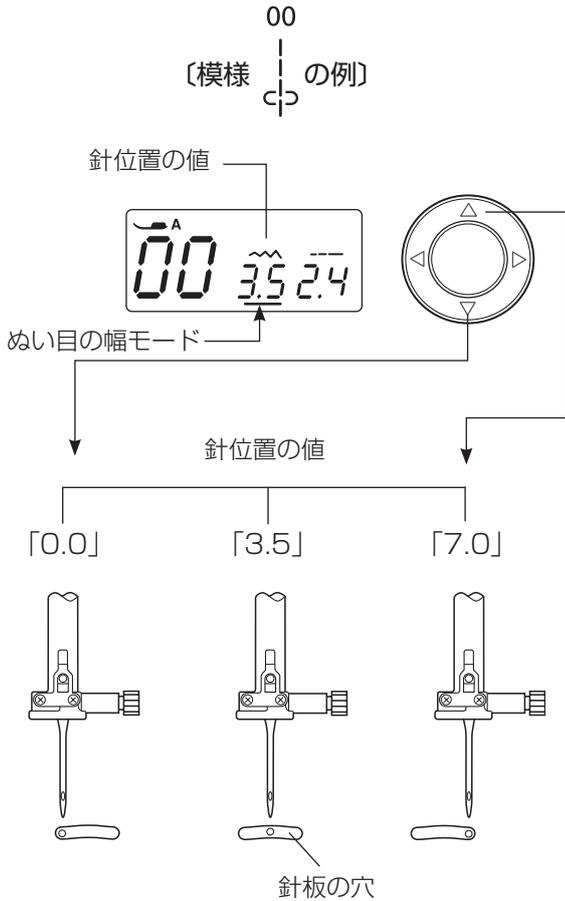
④



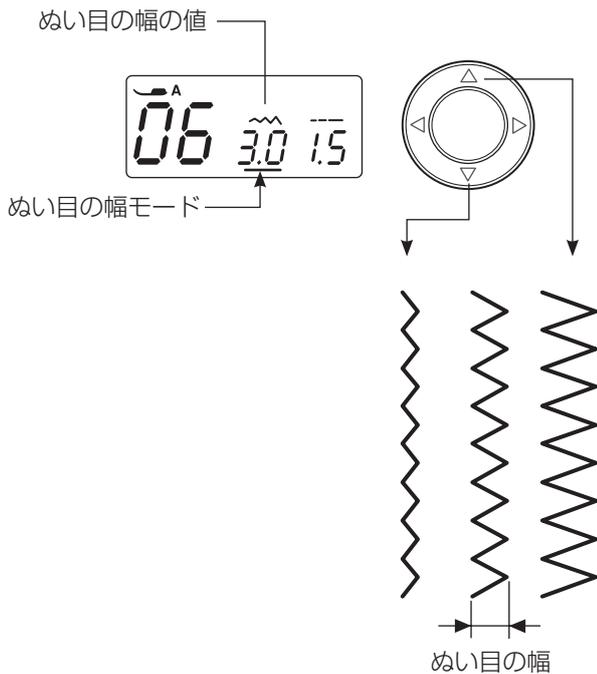
④ 上糸と下糸を押さえの下から向こう側に約10 cmほど引き出して、そろえておきます。

# ◎ぬい方

## ●ぬい目の幅のかえ方



06  
[模様  $\text{M}$  の例]



◁ ▷ ボタンでぬい目の幅モードを選びます。  
 △ ボタンでぬい目の幅（直線状模様の場合は針位置）をかえることができます。  
 初期値（電源投入時）は、模様  $\text{00}$  は 3.5 です。  
 模様  $\text{06}$  は 3.0 です。

△ ボタンを押すと表示されている数値が大きくなり、ぬい目の幅が広くなります。  
 直線状模様の場合は、針が右へ移動します。

▽ ボタンを押すと表示されている数値が小さくなり、ぬい目の幅がせまくなります。  
 直線状模様の場合は、針が左へ移動します。

※ 模様  $\text{00}$   $\text{06}$  は 0.0 ~ 7.0 の範囲で 0.5 ずつかえることができます。

※ 画面の数値は、ぬい目の幅の目安をミリメートルで表示しています。

直線状模様の場合は、左針位置からの距離の目安をミリメートルで表示しています。

左針位置が「0.0」、中針位置が「3.5」、右針位置が「7.0」になります。

※ 直線状模様  $\text{00}$   $\text{01}$   $\text{02}$   $\text{03}$   $\text{04}$  は、針位置がかわられます。

06  
模様  $\text{M}$  のイラストの右に書かれている「M」は、ぬい目の幅をかえたときの基準位置です。

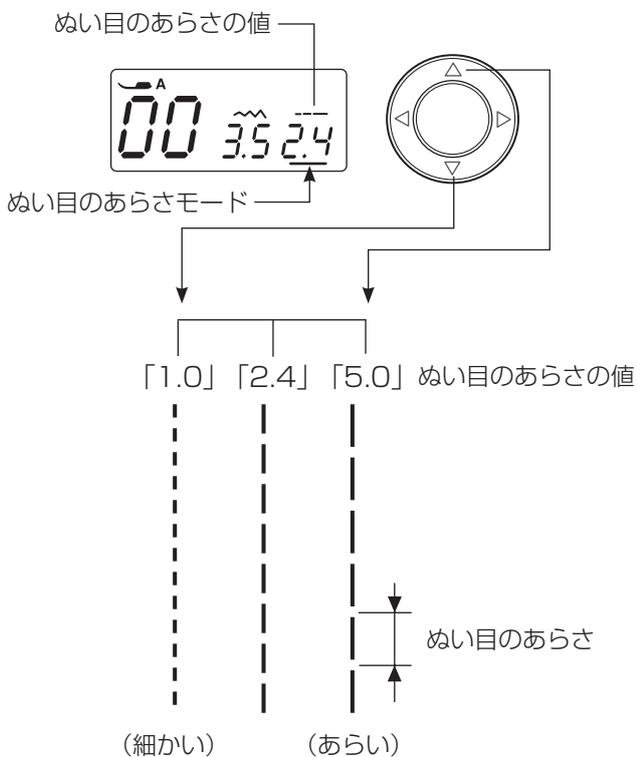
ぬい目の幅をかえたときに、中針位置を基準（固定）に左右に幅が変化します。

中針位置 (M) 基準

針板の穴

## ●ぬい目のあらかさのかえ方

00  
〔模様  の例〕



◁ ▷ ボタンでぬい目のあらかさモードを選びます。  
△ ボタンでぬい目のあらかさをかえることができます。

▽ 初期値（電源投入時）は、模様  は 2.4 です。

模様  は 1.5 です。

※ 模様  は 0.0～5.0 の範囲でかえることができます。（0.0 から 1.0 に、1.0 から 1.5 に、1.5 から 1.8 にかえることができます。1.8 から 3.0 まで 0.2 ずつかえることができます。また 3.0 から 5.0 まで 0.5 ずつかえることができます。）

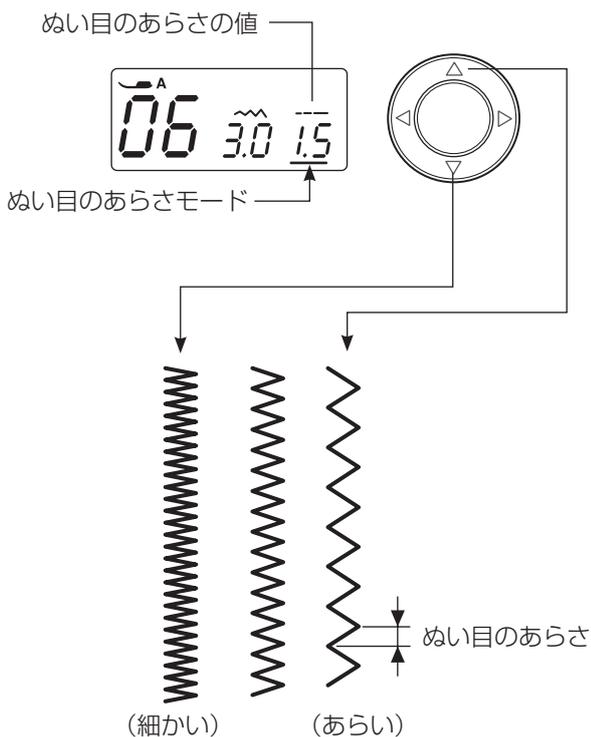
※ 模様  は 0.2～5.0 の範囲でかえることができます。（0.2 から 1.0 まで 0.1 ずつ、1.0 から 5.0 まで 0.5 ずつかえることができます。）

△ ボタンを押すと表示されている数値が大きくなり、ぬい目のあらかさがあらかくなります。

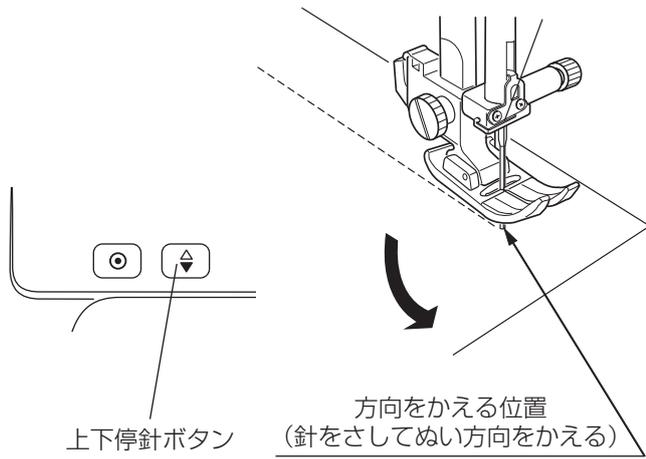
▽ ボタンを押すと表示されている数値が小さくなり、ぬい目のあらかさが細かくなります。

※ ぬい目のあらかさは、布や糸によりかわりますので、画面の数値は目安としてミリメートルで表示しています。また、返しぬいのぬい目のあらかさは、表示数値より小さくなります。

06  
〔模様  の例〕

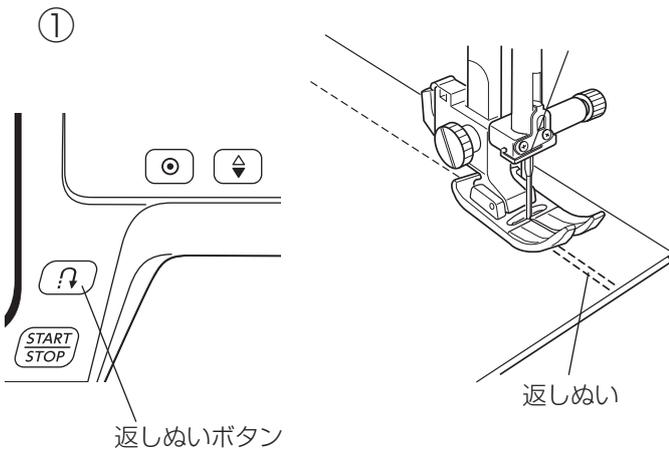






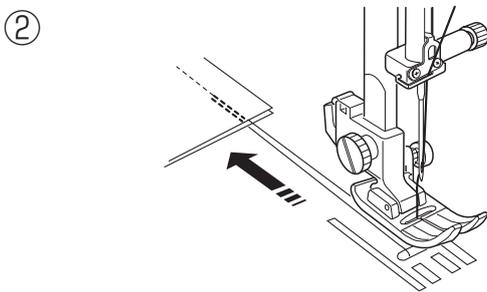
## 【ぬい方向の変更】

- ① 布の方向をかえる位置まできたらミシンを停止します。
  - ② 布に針がささっていない場合は、上下停針ボタンを押して針を布にさし、押さえ上げをあげます。
  - ③ 針を布にさしたままぬい方向をかえ、押さえ上げをさげてぬい始めます。
- ※ ぬい位置がずれなくて、きれいにぬうことができます。

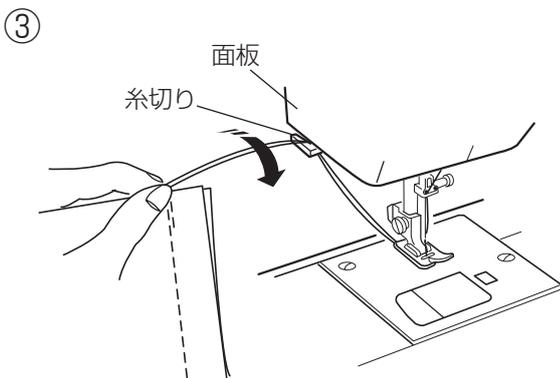


## 【ぬい終わり】

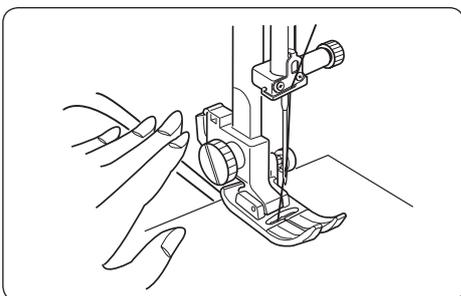
- ① ぬい終わりの位置で返しぬいボタンを押して数針返しぬいを行い、ミシンを停止します。
- ※ ぬい始めとぬい終わりのほつれ止めを自動的に行う自動返しぬい模様<sup>01</sup>と自動止めぬい模様<sup>02</sup>があります。「★自動返しぬい」「★自動止めぬい」(26、27 ページ)をごらんください。



- ② 針があがった位置で、押さえ上げをあげて布を向こう側に引き出します。



- ③ 布を向こう側に引き出してから手前に返すようにして糸を切ります。



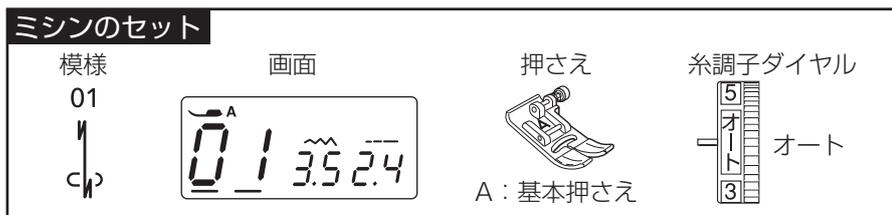
- ※ 引き続きぬう場合には、上糸と下糸を押さえの下から向こう側に引き出した状態で布を入れ、糸と布を左手で押さえ、はずみ車を手で手前にまわして最初のぬい位置に針をさし、ぬい始めます。

## ★直線ぬい（左針位置）

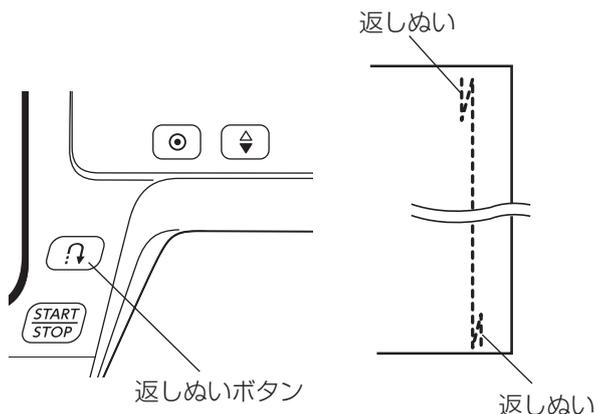


端ぬいや、薄物ぬいに使います。

## ★自動返しぬい



ぬい始めとぬい終わりにしっかりしたほつれ止め（返しぬい）を自動的に行うときに使います。



### 【ぬい始め】

ミシンをスタートさせると、ぬい始めに自動的に数針返しぬいを行います。

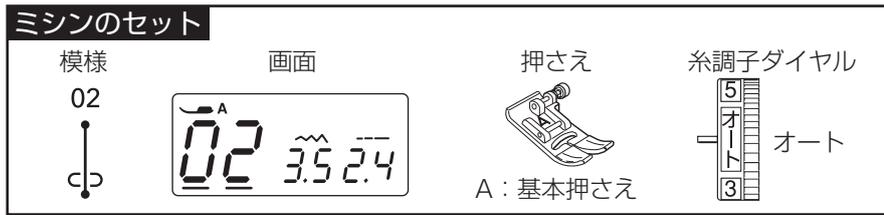
### 【ぬい終わり】(スタート/ストップボタン使用時)

ぬい終わりの位置にきたらミシンを停止し（または運転したまま）、返しぬいボタンを一度押します。その位置から自動的に数針返しぬいを行ってミシンが停止します。

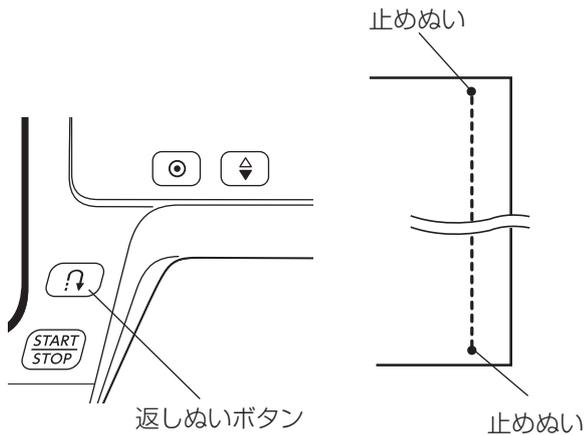
### 【ぬい終わり】(フットコントローラー使用時)

ぬい終わりの位置にきたらミシンを停止し（または運転したまま）、返しぬいボタンを一度押します。ミシンを停止してからボタンを押した場合は、再度フットコントローラーをふむと、その位置から自動的に数針返しぬいを行ってミシンが停止します。運転したままボタンを押した場合も、その位置から自動的に数針返しぬいを行ってミシンが停止します。

## ★自動止めぬい



ぬい始めとぬい終わりに目立たないほつれ止め（止めぬい）を自動的に行うときに使います。



### 【ぬい始め】

マシンをスタートさせると、ぬい始めに自動的に数針止めぬいを行います。

### 【ぬい終わり】(スタート/ストップボタン使用時)

ぬい終わりの位置にきたらマシンを停止し（または運転したまま）、返しぬいボタンを一度押します。その位置で自動的に数針止めぬいを行ってマシンが停止します。

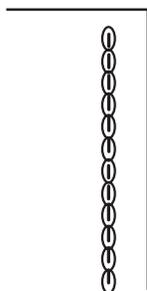
### 【ぬい終わり】(フットコントローラー使用時)

ぬい終わりの位置にきたらマシンを停止し（または運転したまま）、返しぬいボタンを一度押します。マシンを停止してからボタンを押した場合は、再度フットコントローラーをふむと、その位置で自動的に数針止めぬいを行ってマシンが停止します。運転したままボタンを押した場合も、その位置で自動的に数針止めぬいを行ってマシンが停止します。

※ ぬい終わりに、返しぬいボタンのかわりに止めぬいボタンを押しても同じ結果になります。

## ★三重ぬい

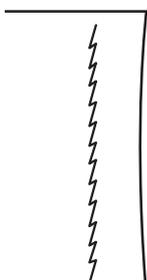
ミシンのセット			
模様 04 	画面 	押さえ  A：基本押さえ	糸調子ダイヤル  オート



丈夫なぬい目で、厚い布や袋物、ズボンなどしっかりとぬい合わせたい場所に使います。

## ★伸縮ぬい（ニットステッチ）

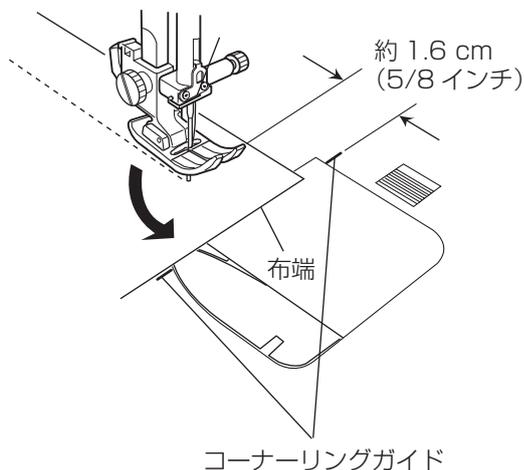
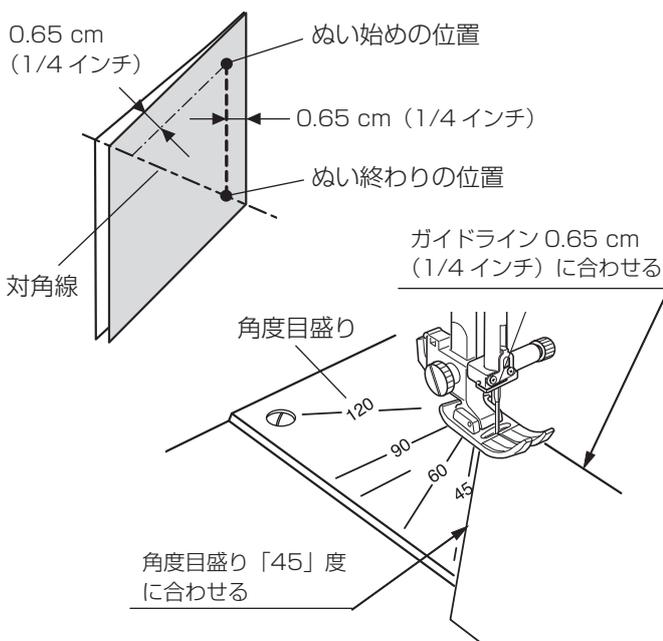
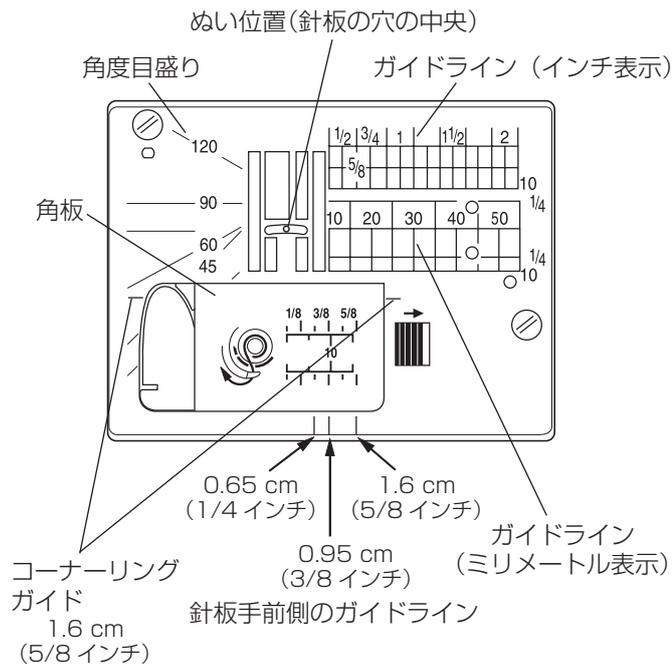
ミシンのセット			
模様 05 	画面 	押さえ  A：基本押さえ	糸調子ダイヤル  オート



布が伸びても糸が切れにくい伸縮性のあるぬい目で、ニット地のぬい合わせなどに使います。

※ ぬい目の幅調節は、ほかの直線状模様と異なり、針位置ではなく、ぬい目の幅の調節になります。

## ★針板ガイドの使い方



針板には、布のぬい位置を決めるための便利なガイドがいろいろ表示されています。

### 【ガイドライン】

布端を針板のガイドラインに合わせてぬうと、布端から正確な位置にぬうことができます。ガイドラインの数字は、ぬい位置（針板の穴の中央）からガイドラインまでの距離を「インチ」と「ミリメートル」で表示しています。

※ ガイドラインは角板にも表示されています。

### 【角度目盛り】

角度目盛りは、パッチワークのピース作りに使うと便利です。

パッチワーク布（ピース）の角度と同じ角度目盛りに布端を合わせると、しるしなしでぬいしろ 0.65 cm（1/4 インチ）のぬい始めの位置を決めることができます。

#### 〔例〕 レモンスター

- ① ピースの対角線に折り目を付けます。
- ② めい始めは、布端をガイドライン 0.65 cm（1/4 インチ）および角度目盛り「45」度に合わせて布を置きます。
- ③ めい終わりは、対角線までぬいます。

### 【コーナーリングガイド】

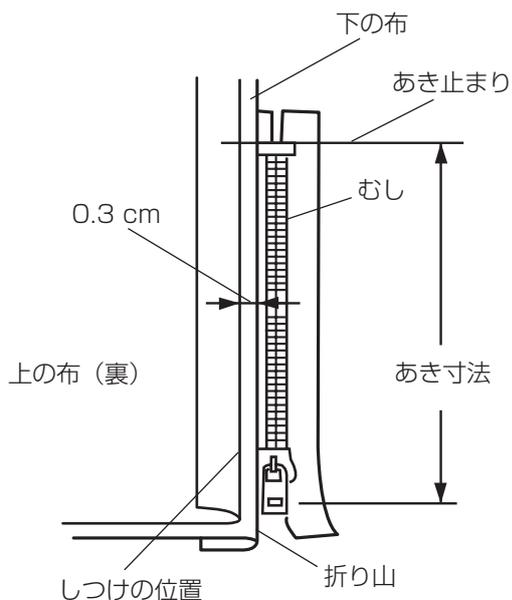
布端から約 1.6 cm（5/8 インチ）のところまで直角にぬい方向をかえるときに利用します。

ぬい方向をかえたあと布端から約 1.6 cm（5/8 インチ）の位置でぬうことができます。

- ① 布端がコーナーリングガイドのところきたらミシンを停止します。
- ② 針を布にさした状態で押さえ上げをあげ、布を直角に回転させます。  
布端が針板右側のガイドライン 1.6 cm（5/8 インチ）の位置に合います。
- ③ 押さえ上げをさげ、ミシンをスタートさせます。

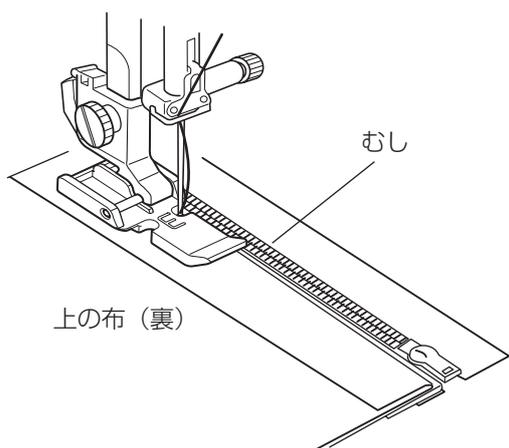


④



④ めいしろを割り、下の布のめいしろを 0.3 cm 出してアイロンで折り目をつけ、折り山をむしのきわに当てます。

⑤



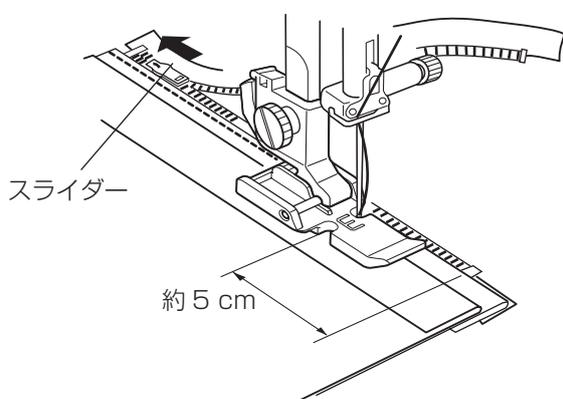
⑤ ファスナー押さえの右側のピンを押さえホルダーにセットし、むしのきわを押さえの端（右側段部）に当て、あき止まりからファスナーの左側をぬいます。

※ めい始めのほつれ止めは数針返しぬいをします。

### ⚠ 注意

ファスナーをぬうときは、針が押さえやファスナーに当たらないように注意してください。針が当たると、けがの原因となります。

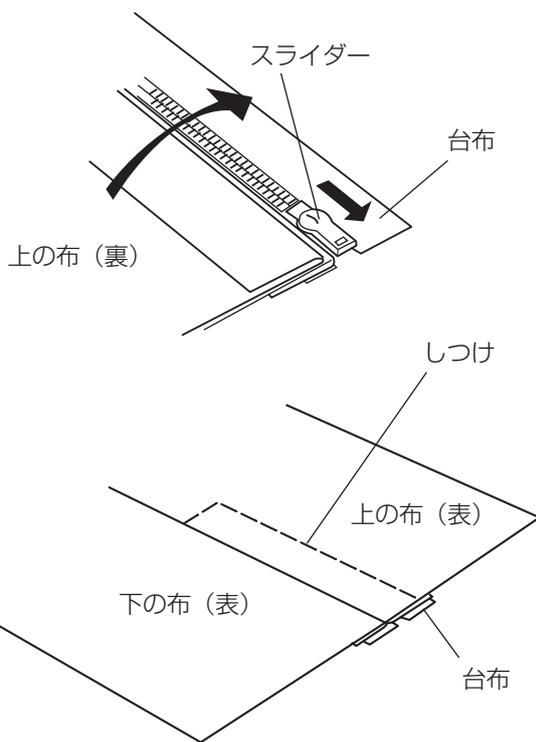
⑥



⑥ ファスナーの端から約 5 cm 手前でミシンを停止し、針を布にさした状態で押さえ上げをあげ、スライダーを押さえの向こう側にずらし、押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。

※ めい終わりのほつれ止めは数針返しぬいをします。

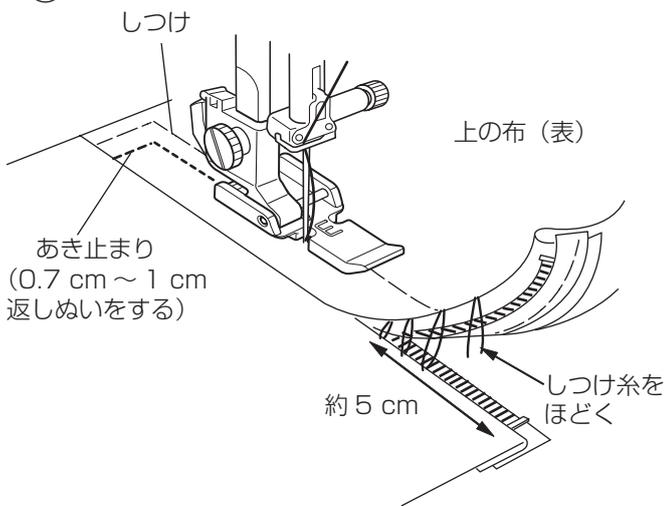
⑦



⑦ ファスナーを閉じ、スライダーを上にしたおし、上の布をファスナーの上にかぶせます。かぶせた布と台布をしつけで止めます。

※ しつけは A：基本押さえを使用します。しつけは、ほどこきやすくするために、ぬい目のあかさ「5.0」(約 0.5 cm)、糸調子「1」くらいでぬい(しつけ)ます。しつけが終わったら、ぬい目のあかさおよび糸調子をもとの値にもどしてください。(糸調子ダイヤルの位置は「オート」)

⑧

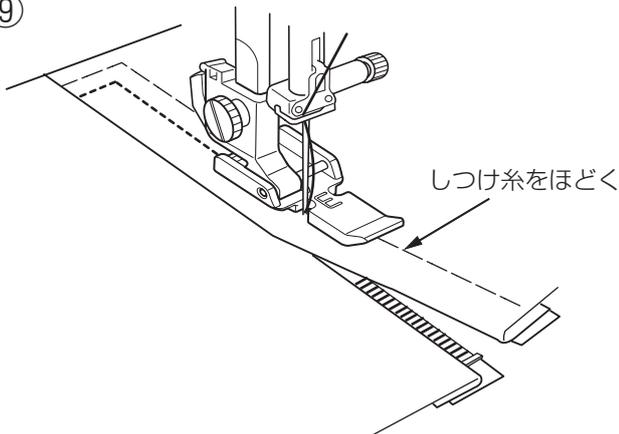


⑧ ファスナー押さえの左側のピンを押さえホルダーにセットします。上の布のあき止まりを約 0.7 cm ~ 1 cm 返しぬいしてから、むしのきわを押さえの端(左側段部)に当て、ファスナーの右側をぬいます。ファスナーの上側を約 5 cm 残したところでミシンを停止し、針を布にさした状態で押さえ上げをあげ、手順③でぬったしつけ糸をほどこき、スライダーを押さえの向こう側にずらします。

### ⚠ 注意

ファスナーをぬうときは、針が押さえやファスナーに当たらないように注意してください。針が当たると、けがの原因となります。

⑨



⑨ 押さえ上げをさげて残りの部分をぬいます。ぬい終わったら手順⑦でぬったしつけ糸をほどこきます。



## ●ボタン付け

### ミシンのセット



ぬい目のあらかさの値  
(最小値に設定する)

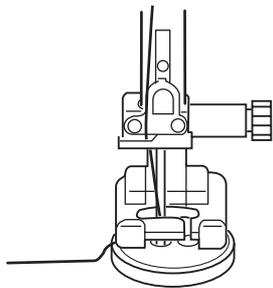


ぬい目の幅の値  
(ボタン穴の間かくと同じ値に設定する)

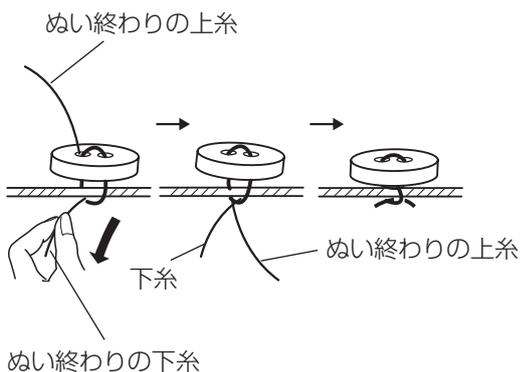
### ⚠ 注意

必ず針がボタン穴の左右におりることを確認してください。ボタンに針が当たると針が折れ、けがの原因となります。

① ② ③ ④



⑤ ⑥



### 【準備】

- ① 送り歯ドロップつまみで送り歯をさげます。
- ② スピードコントロールつまみの位置をゆっくり側にし、ぬい速度を遅くします。
- ③ ぬい目のあらかさモードで、ぬい目のあらかさを最小値に設定します。
- ④ ボタンの左右の穴の間かくをはかり、ぬい目の幅モードで、ぬい目の幅の値を間かくと同じ値に設定します。

### 【ぬい方】

※ ぬい始めに自動的に止めぬいを入れるために、下記手順①からの操作を行うときは、必ず模様  を選んだ直後から行ってください。模様  を一度でもぬったあとに行くと、ぬい始めに止めぬいが入りません。

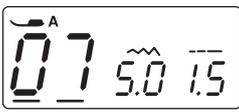
- ① ボタンを押さえの下に置き、はずみ車を手で手前にまわしてボタンの左の穴に針をさします。
  - ② ボタンの左右の穴が真横になるようにして、押さえ上げをさげます。
  - ③ はずみ車を手で手前に数回まわすと、左側の穴を数回ぬったあと針が右側に移動するので、針がボタンに当たらないでボタンの右の穴に入ることを確認します。
- ※ はずみ車を手前にまわすと、最初に止めぬいを行うために左側の穴だけを数回ぬいます。
- ④ ミシンをスタートさせ、10針くらいぬったらミシンを停止します。
  - ⑤ 針をあげ、押さえ上げをあげて布を引き出し、上糸と下糸を10cm～20cm残して切ります。

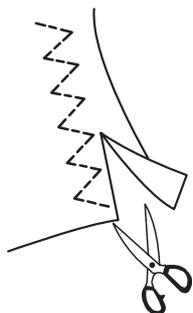
- ⑥ ぬい始めの上糸と下糸は止めぬいが入っているので、ボタンのきわで、はさみで切ります。  
ぬい終わりの上糸と下糸は、下糸を引いて上糸を布の裏側に引き出し、上糸と下糸を結んでから切ります。

※ ぬい終わったら、送り歯ドロップつまみを「送り歯をあげる位置」にもどしてください。  
送り歯のあげ方・さげ方は、「●送り歯ドロップつまみ」(13ページ)をごらんください。

## ●かがりぬい

### ★トリコットぬいたち目かがり

ミシンのセット			
模様 07 	画面 	押さえ  A：基本押さえ	糸調子ダイヤル  オート

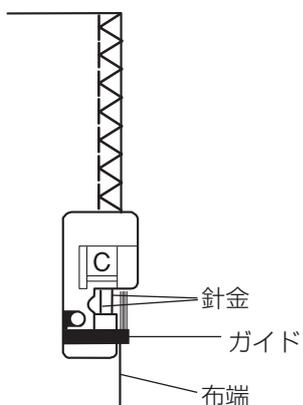


ほつれやすい布や伸縮性のある布のほつれ止め、布端の反り防止などに使います。

ぬいしろを少し多めにとってぬい、余分なところをぬい目近くで切り落とします。

### ★かがりぬい

ミシンのセット			
模様 08 	画面 	押さえ  C：たち目かがり押さえ	糸調子ダイヤル  オート



普通地、平織り2枚に適しています。  
地ぬいをかねたかがりぬいで、たち目のほつれ止めに使います。

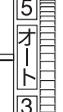
布端を押さえのガイドに当ててぬいます。

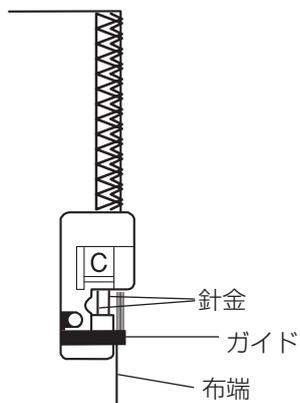
※ C：たち目かがり押さえを使用するときは、ぬい目の幅は、「5.0」～「7.0」でぬいます。

### ⚠ 注意

C：たち目かがり押さえを使用するときは、ぬい目の幅は「4.5」以下では使用しないでください。  
針が針金に当たり、けがの原因となります。

## ★厚物かがりぬい

ミシンのセット			
模様 10 	画面 	押さえ  C：たち目かがり押さえ	糸調子ダイヤル  オート



普通の布や厚い布およびほつれやすい布のしっかりした布端をかがるときに使います。

布端を押さえのガイドに当ててぬいます。

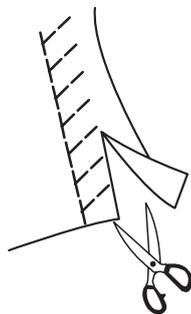
※ C：たち目かがり押さえを使用するときは、ぬい目の幅は、「5.0」～「7.0」でぬいます。

### ⚠ 注意

C：たち目かがり押さえを使用するときは、ぬい目の幅は「4.5」以下では使用しないでください。針が針金に当たり、けがの原因となります。

## ★ニットステッチ

ミシンのセット			
模様 09 	画面 	押さえ  A：基本押さえ	糸調子ダイヤル  オート



伸縮性布地（ニット地など）のかがりぬいに使います。

ぬいしろを少し多めにとってぬい、余分なところをぬい目近くで切り落とします。

## ●ボタンホール

### ★ボタンホールの種類と用途

13 	<b>スクエアボタンホール</b> 普通の布から厚い布まで一般的な使用目的のボタンホールです。
14 	<b>片ラウンドボタンホール</b> 薄い布から普通の布に使います。ブラウス、子供服でよく使われます。
15 	<b>キーホールボタンホール</b> 普通の布から厚い布に使われる一般的なボタンホールです。 大きく厚めのボタンはキーホールボタンホールがよく使われます。

ボタンホールは、R：ボタンホール押さえにボタンをセットするだけで自動的に最適なボタンホールをぬうことができます。(ボタンホールの長さは、使用するボタンをボタンホール押さえのボタン受け台にはさみ込むと自動的に決まります。)

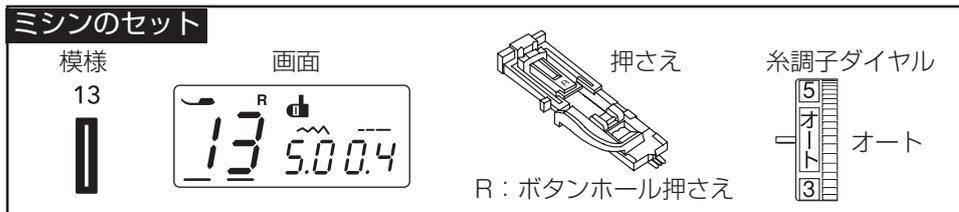
※ ボタンの直径が 1.0 cm ～ 2.5 cm までのボタンホールができます。

※ ボタンホールは、模様が完成するとほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミシンが停止します。

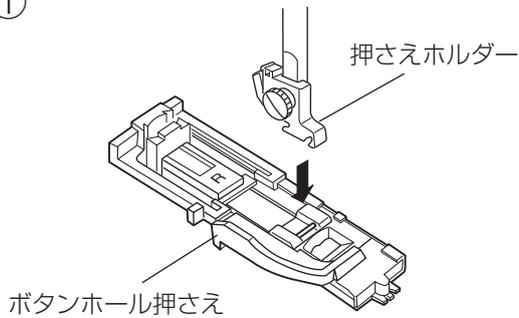
#### ボタンホールの注意事項

- 伸縮性のある布は、伸びないように裏に芯地を貼ってください。
- 使用する布のはぎれなどで試しぬいをして、正しくぬえることを確認してください。
- ボタンホールをぬう場所に、必ずマーク（しるし）を付けてください。

## ★スクエアボタンホール



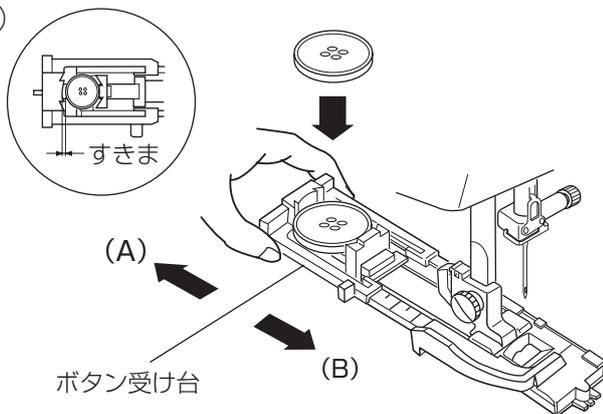
①



① ミシンにボタンホール押さえを取り付けます。

※ 押さえの取り付け方は、「◎操作方法／●押さえの外し方、付け方」(14 ページ) をごらんください。

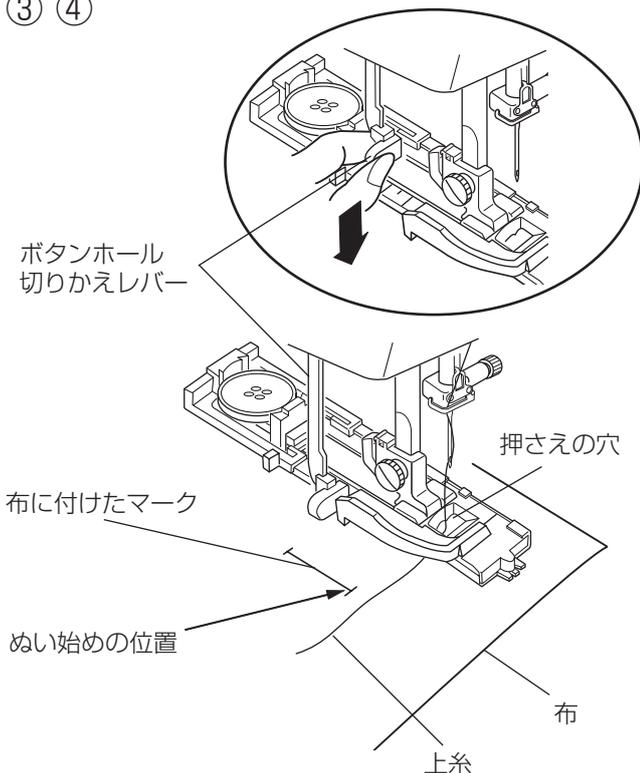
②



② ボタンホール押さえのボタン受け台を (A) 方向へ引き、ボタンをのせて (B) 方向にもどしてはさみ込みます。

※ ボタン受け台とボタンのすきまをあけて位置決めをすると、その分大きいボタンホールができます。

③ ④

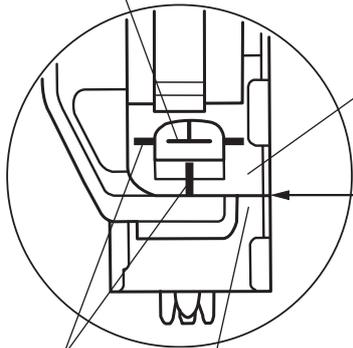


③ 押さえ上げをあげて上糸を押さえの穴から下に通し、横に引き出します。

④ 上糸を横に引き出した状態で布を入れ、布に付けたマークのぬい始めの位置に針をさします。押さえ上げをさげてからボタンホール切りかえレバーを止まるまでいっぱい引き上げます。

布に付けたマーク

押さえスライダ



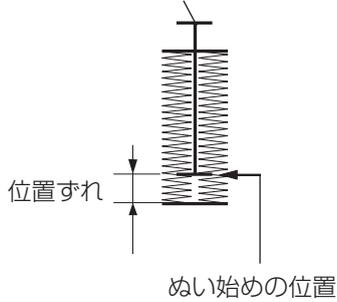
すきまがないこと

スタートマーク

ストッパー

※ スタートマークは、ぬい位置を合わせるための目安のマークです。

布に付けたマーク



位置ずれ

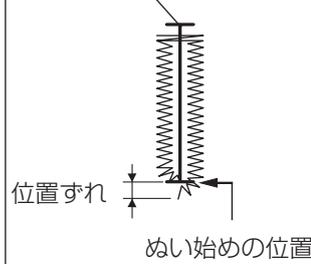
ぬい始めの位置

## ぬい始める前の確認

ぬい始める前に押さえスライダとストッパーのあいだにすきまがないことを確認してください。すきまがあると、ぬい終わったときに位置ずれがおこることがあります。

〔片ラウンドボタンホールの場合〕

布に付けたマーク

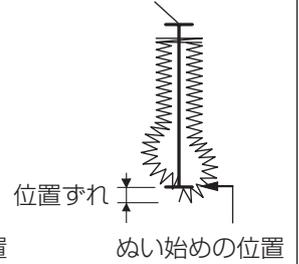


位置ずれ

ぬい始めの位置

〔キーホールボタンホールの場合〕

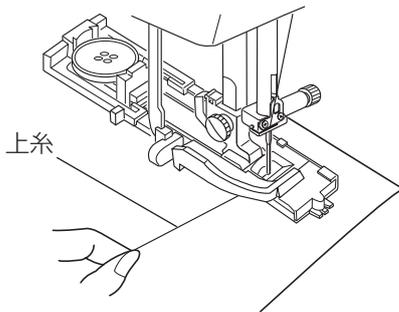
布に付けたマーク



位置ずれ

ぬい始めの位置

⑤

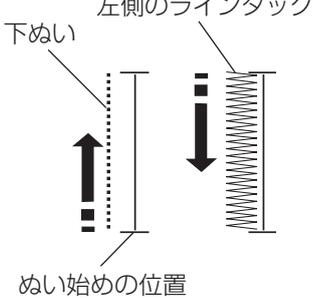


上糸

⑤ 上糸を横に軽く引いて持ち、ミシンをスタートさせます。(ぬい始めから数針ぬったあとは、糸から手をはなしてください。)

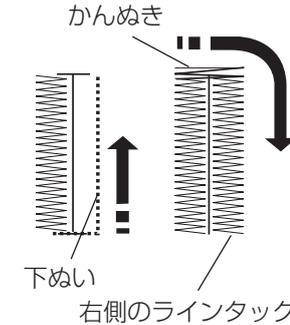
ボタンホールをぬい終わったところでほつれ止めの止めぬいを行って、自動的にミシンが停止します。

[1]



ぬい始めの位置

[2]



右側のラインタック

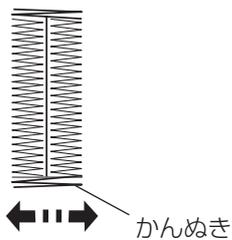
## 【ぬい順序】

[1] 下ぬいをし、左側のラインタックをぬいます。

[2] 下ぬいをし、かんぬきと右側のラインタックをぬいます。

[3] かんぬきと止めぬいを行って自動的にミシンが停止します。

[3]



かんぬき

## ボタンホールの重ねぬい

ボタンホールをぬい終わったところで押さえ上げをあげずにもう一度ミシンをスタートさせると、ボリューム感のあるボタンホールの「重ねぬい」ができます。

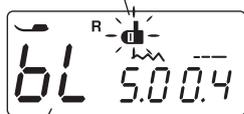
※ 「重ねぬい」は、必ず押さえ上げをあげずにそのままの状態でもシンを再スタートさせてください。

※ ボタンホールの重ねぬいで送りがつまるときは、ぬい目のあさを大きくしてぬってください。

(41 ページ参照)

ボタンホール切りかえレバー表示（点滅）

### ボタンホール切りかえレバーをさげないでぬった場合



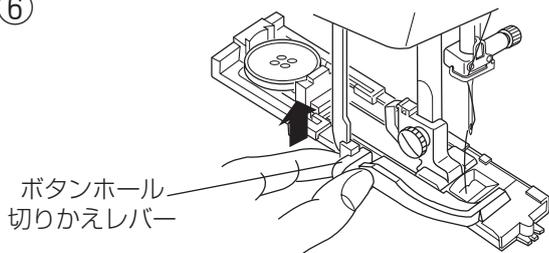
「bL」表示

ボタンホール切りかえレバーをさげないでミシンをスタートさせると、少しだけぬってミシンは停止します。

このとき約 3 秒間だけ画面の模様番号の表示が「bL」表示にかわり、同時にボタンホール切りかえレバー表示が点滅します。

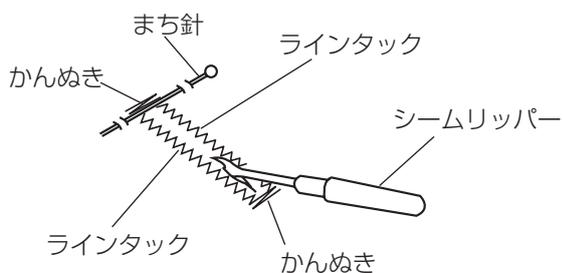
ボタンホール切りかえレバーを引きさげて、ミシンを再スタートさせてください。

⑥



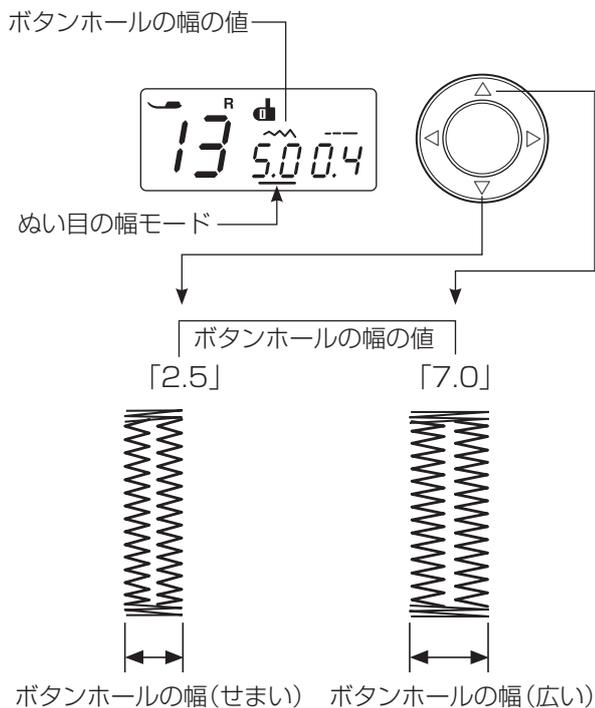
⑥ ぬい終わったら、ボタンホール切りかえレバーを止まるまでいっぱい押しあげてもどします。

⑦



⑦ かんぬきの内側にまち針をわたして、シームリッパーで左右のラインタックの糸を切らないようにボタン穴を切り開きます。

## ★ボタンホールの幅とあらかさのかえ方



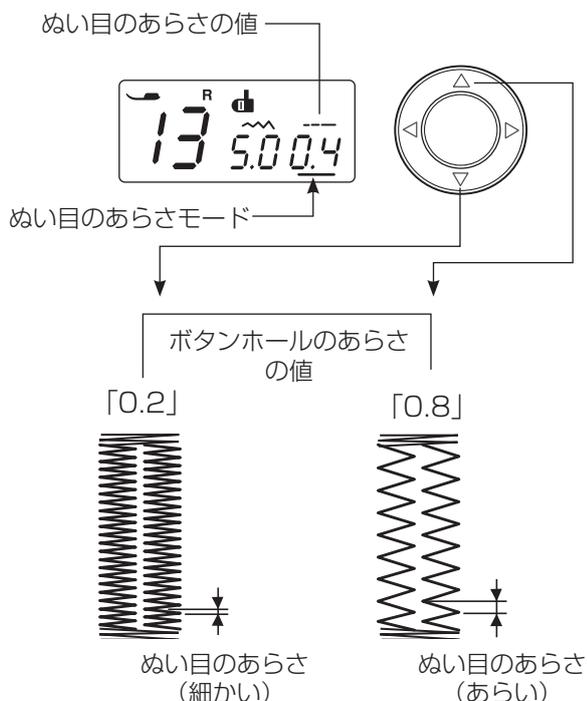
- ◁ ▷ ボタンでぬい目の幅モードを選びます。
- △ ボタンでぬい目のあらかさをかえることができます。
- ▽ 初期値（電源投入時）は5.0です。

2.5～7.0まで0.5ずつかえることができます。

△ ボタンを押すと表示されている数値が大きくなり、ボタンホールの幅が広くなります。

▽ ボタンを押すと表示されている数値が小さくなり、ボタンホールの幅がせまくなります。

※ 画面の数値は、ボタンホールの幅の目安をミリメートルで表示しています。



- ◁ ▷ ボタンでぬい目の幅モードを選びます。
- △ ボタンでぬい目のあらかさをかえることができます。
- ▽ 初期値（電源投入時）は0.4です。

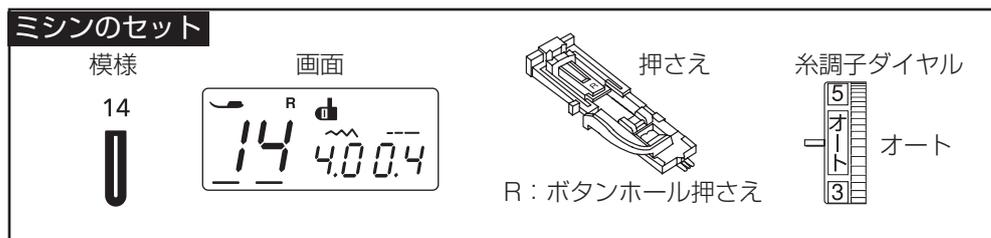
0.2～0.8まで0.1ずつかえることができます。

△ ボタンを押すと表示されている数値が大きくなり、ぬい目のあらかさがあらかくなります。

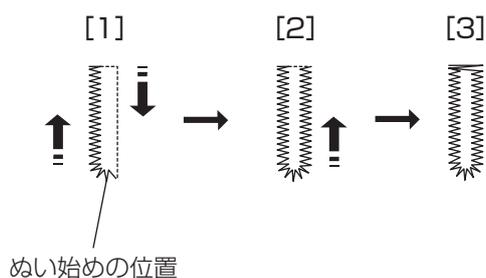
▽ ボタンを押すと表示されている数値が小さくなり、ぬい目のあらかさが細かくなります。

※ 画面の数値は、ぬい目のあらかさの目安をミリメートルで表示しています。

## ★片ラウンドボタンホール



### 【ぬい順序】



※ ぬい方は、「★スクエアボタンホール」と同じです。  
38～40ページをごらんください。

### 【ボタンホールの幅】

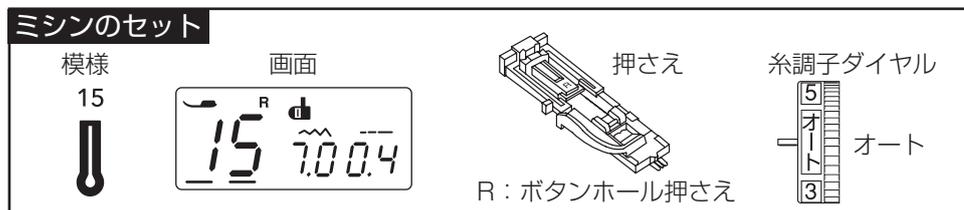
ボタンホールの幅を2.5～5.5まで0.5ずつかえることができます。

### 【ぬい目のあらかさ】

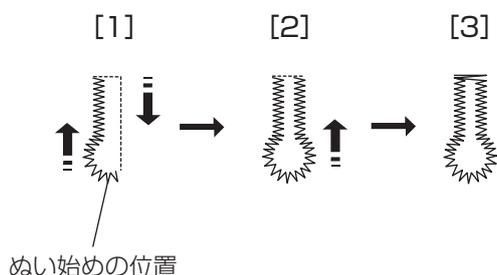
ぬい目のあらかさを0.2～0.8まで0.1ずつかえることができます。

※ 幅とあらかさのかえ方は、「★ボタンホールの幅とあらかさのかえ方」(41ページ)をごらんください。

## ★キーホールボタンホール



### 【ぬい順序】



※ ぬい方は、「★スクエアボタンホール」と同じです。  
38～40ページをごらんください。

※ キーホールボタンホールの穴は、市販のポンチで丸穴を開けてからシームリッパーで切り開いてください。



### 【ボタンホールの幅】

ボタンホールの幅を5.5～7.0まで0.5ずつかえることができます。

### 【ぬい目のあらかさ】

ぬい目のあらかさを0.3～0.8まで0.1ずつかえることができます。

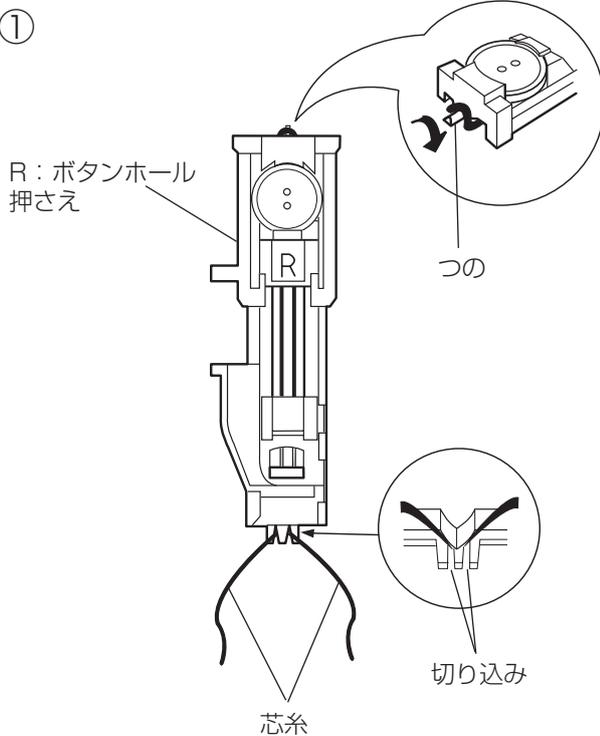
※ 幅とあらかさのかえ方は、「★ボタンホールの幅とあらかさのかえ方」(41ページ)をごらんください。

# ★芯入りボタンホール

**ミシンのセット**

模様 13	画面 13 R 5.00.4	押さえ	糸調子ダイヤル オート
		R: ボタンホール押さえ	

①

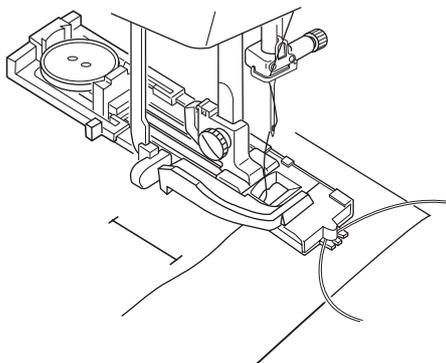


※ 使用する芯糸の太さに合わせてボタンホールの幅を調節してください。

① 芯糸の中央部を押さえのうしろ側にあるつのかげ、押さえの下から手前に平行になるように引き出し、前側の2カ所の切り込みに左右の糸をそれぞれはさめます。

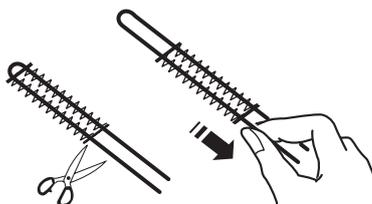
※ 芯糸は、たるみのないように強く張ってください。

②



② スクエアボタンホールの手順①～⑦（38～40ページ）と同じようにぬいます。

③

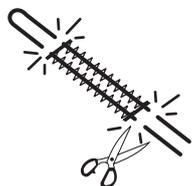


③ ぬい終わったら芯糸を引いてたるみをなくし、余分な芯糸を切ります。

※ ぬい目の幅は、芯糸の太さに合わせてセットします。

※ 穴の開け方は、40ページをごらんください。

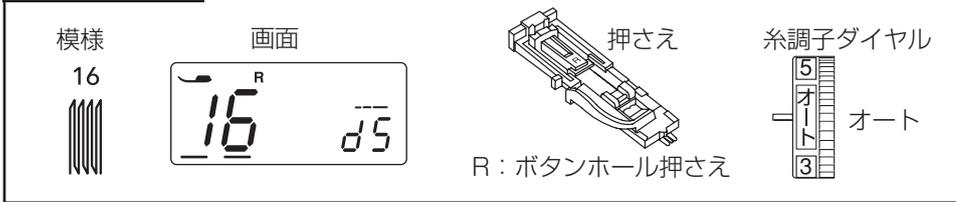
芯糸が引けない場合



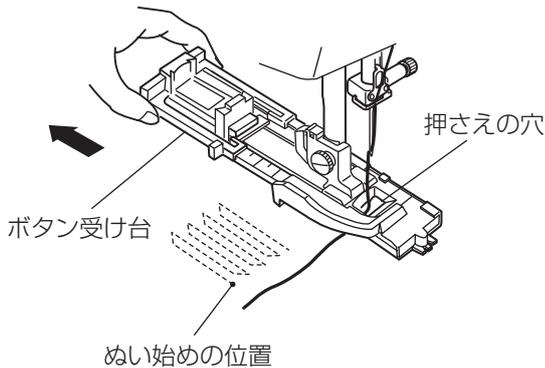
※ 左右どちらの芯糸も引けない場合は、芯糸の両側を切ります。

## ●つくろいぬい (ダーニング)

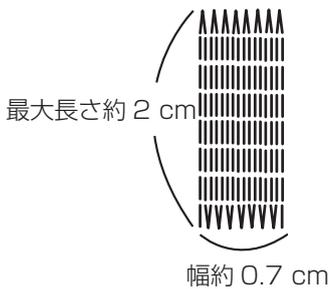
### ミシンのセット



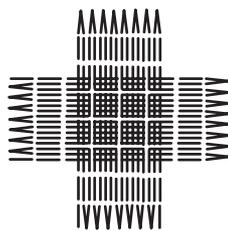
① ② ③



④



⑤



※ 模様 は、模様が完成するとほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミシンが停止します。

- ① ボタン受け台をいっぱい引き出します。
- ② 上糸を押さえの穴から下に通し、横に引き出します。
- ③ ぬい始めの位置に針をさし、押さえ上げを下げます。
- ④ ミシンをスタートさせ、自動的に停止するまでぬいませ。

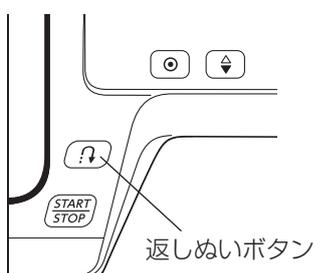
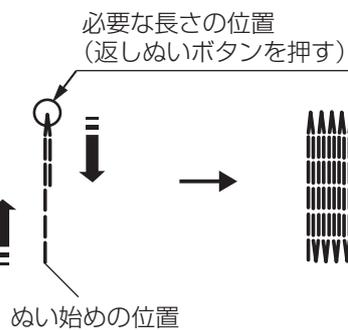
※ 自動的に停止するまでぬうと、最大約 2 cm の長さをぬうことができます。(幅は約 0.7 cm) 2 cm より短い長さでぬう場合は、下記【2 cm より短い長さでぬう場合】をごらんください。

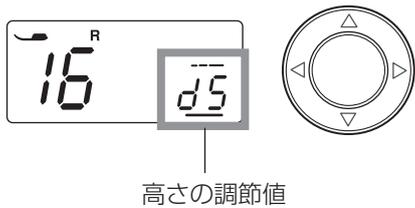
- ⑤ 布の向きをかえてぬいます。

### 【2 cm より短い長さでぬう場合】

最初に必要な長さまでぬい、返しぬいボタンを押します。押した位置から折り返しますので、自動的にミシンが停止するまでぬいます。

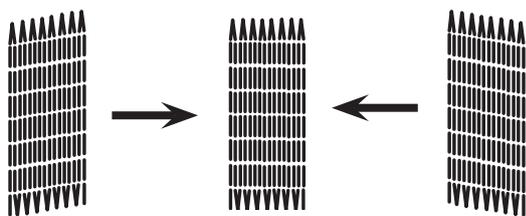
※ ぬい終わると長さが記憶されていますので、2 個目から返しぬいボタンを押さなくても同じ長さのものをくり返しぬうことができます。(別の模様が選ばれるまで記憶されています。)





高さの調節値

(「d1」～「d4」) ← ▽      △ → (「d6」～「d9」)  
 <左側が低い場合>   <正しい形>   <右側が低い場合>



### 【形の整え方】

つくろいぬい（ダーニング）のぬい始め（左側）とぬい終わり（右側）の高さがそろわないときは、ぬい目のあらかモードにして調節します。

「d1」～「d9」の範囲で調節できます。  
 初期値（電源投入時）は「d5」です。

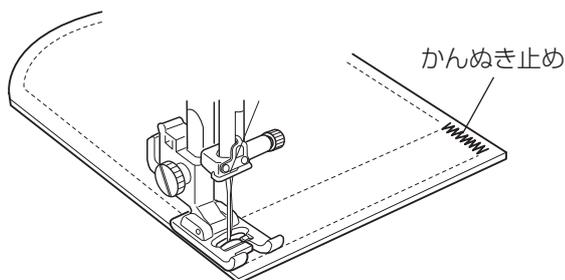
- 左側が低い場合 ▽ を押します。…「d1」～「d4」
- 右側が低い場合 △ を押します。…「d6」～「d9」

## ●かんぬき止め



ポケットぐちなど、ぬい目に力がかかってほつれやすい部分などを補強します。

※ 模様 は、模様が完成するとほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミシンが停止します。



① ぬい始めの上糸を横に引き出しておきます。

② ぬい始めの位置に針をさし、押さえ上げをさげます。

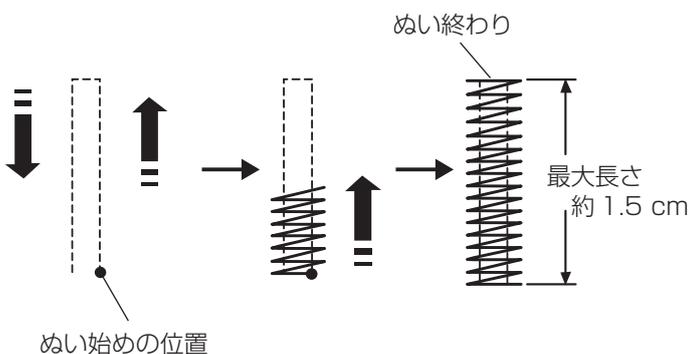
③ ミシンをスタートさせ、自動的に停止するまでぬいませ。

※ 自動的に停止するまでぬうと、最大約 1.5 cm の長さのかんぬき止めをぬうことができます。

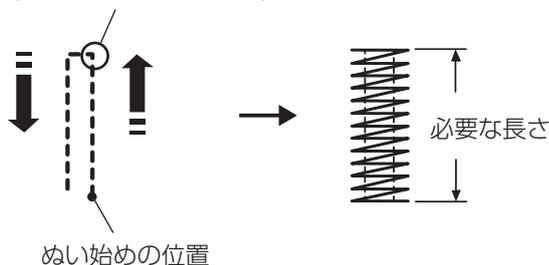
1.5 cm より短い長さでぬう場合は、下記【1.5 cm より短い長さでぬう場合】をごらんください。

※ ぬい目の幅やあさは、ぬい目の幅モードとぬい目のあさモードでかえることができます。

(ぬい目のあさをかえると、自動でぬえる最大長さ「1.5 cm」もかわります。)



必要な長さの位置  
(返しぬいボタンを押す)

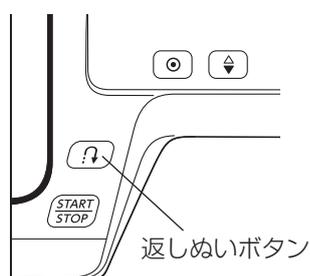


### 【1.5 cm より短い長さでぬう場合】

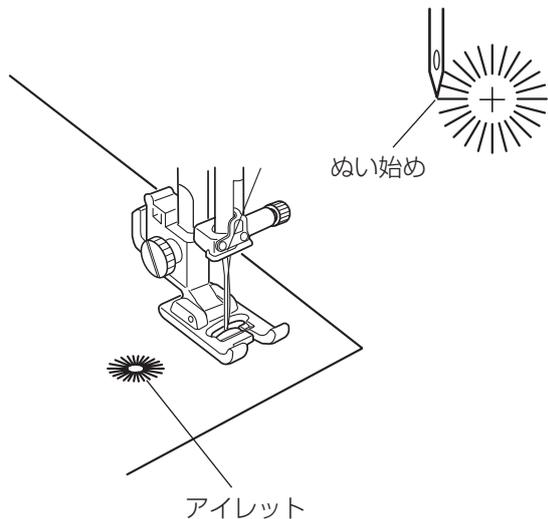
最初に必要な長さまでぬい、返しぬいボタンを押します。押した位置から折り返しますので、自動的にミシンが停止するまでぬいます。

※ ぬい終わると長さが記憶されていますので、2 個目から返しぬいボタンを押さなくても同じ長さのかんぬき止めをくり返しぬうことができます。

(別の模様が選ばれるまで記憶されています。)



## ●アイレット



18

※ 模様  は、模様が完成するとほつれ止めの止めぬいを行って自動的にミシンが停止します。

- ① ぬい始めの上糸を横に引き出しておきます。
- ② ぬい始めの位置に針をさし、押さえ上げをさげます。
- ③ ミシンをスタートさせ、自動的に停止するまでぬいませ。

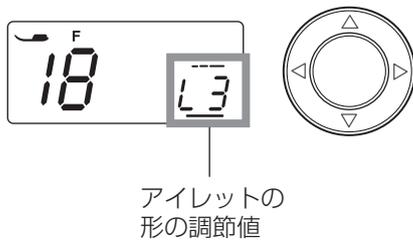
※ ぬい目の内側は、市販のポンチなどで穴を開けます。ポンチの穴の大きさは、直径 0.25 cm 以下のものをご使用ください。

### 【形の整え方】

布などによってアイレットの形がくずれる場合は、ぬい目のあらかさモードにして調節します。

「L1」～「L5」の範囲で調節できます。  
初期値（電源投入時）は「L3」です。

- ・ぬい目が重なる場合 △ ボタンを押します。  
… 「L4」～「L5」
- ・ぬい目にすきまがある場合 ▽ ボタンを押します。  
… 「L1」～「L2」



(「L1」～「L2」) ← ▽  
〈すきまがある場合〉



△ → (「L4」～「L5」)  
〈重なる場合〉



# ●まつりぬい

**ミシンのセット**

模様 11  

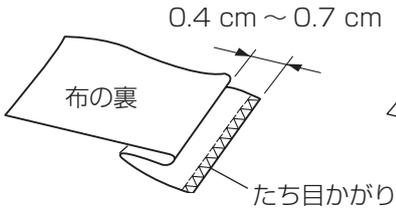

画面  


押さえ  

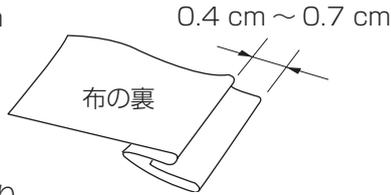

糸調子ダイヤル  
 オート

G:まつりぬい押さえ

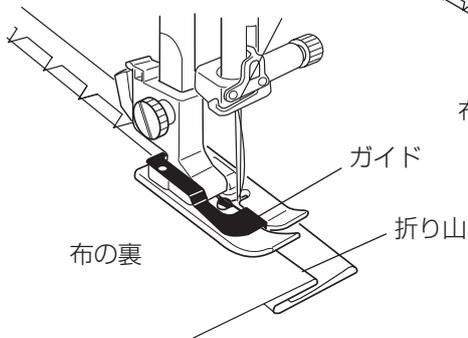
## ① [厚い布の場合]



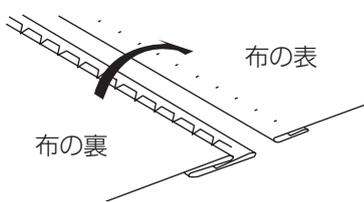
## [薄い布、普通の布の場合]



## ②



## ③



① 図のように布を折ります。

### 【布の折り方】

布を折るときは、裏を表にして下に折り込み、布端を約0.4 cm～0.7 cm はみださせます。

※ ほつれやすい厚い生地は、たち目かがりで布端を処理してください。

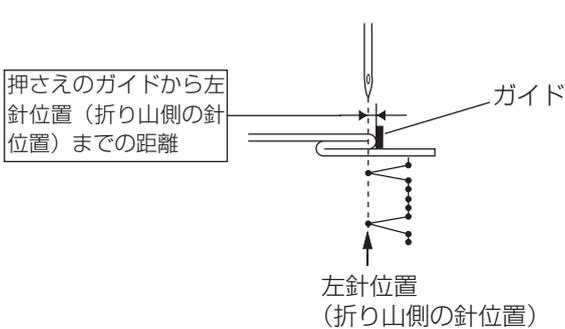
② 折り山をガイドに合わせてぬいます。

※ 針が折り山から外れないように、また必要以上に針が折り山にかかりすぎないように、ぬい目の幅モードで左針位置を調節してください。

(【左針位置の調節方法】参照)

③ ぬい終わったら布を広げます。

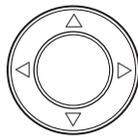
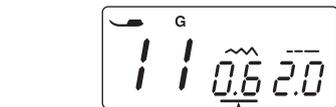
### 【左針位置の調節方法】



模様  の場合、模様を左右に移動させることができます。(模様の幅をかえることはできません。) 布の厚さなどによって、針が折り山にかかりすぎたり、かかりが少なかったりする場合に調節してください。

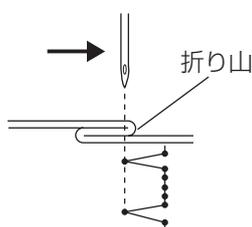
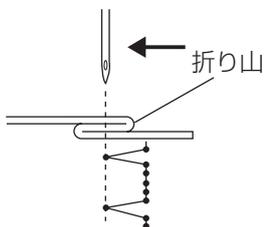
◀ ▶ ボタンでぬい目の幅モードを選びます。

画面のぬい目の幅の数値は、押さえのガイドから左針位置(折り山側の針位置)までの距離の目安をミリメートルで表示しています。



△ ボタンを押すと、針位置が左に移動

▽ ボタンを押すと、針位置が右に移動

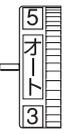


• △ ボタンを押すと表示されている数値が大きくなり、左針位置が左へ移動します。(模様が左へ移動します。)

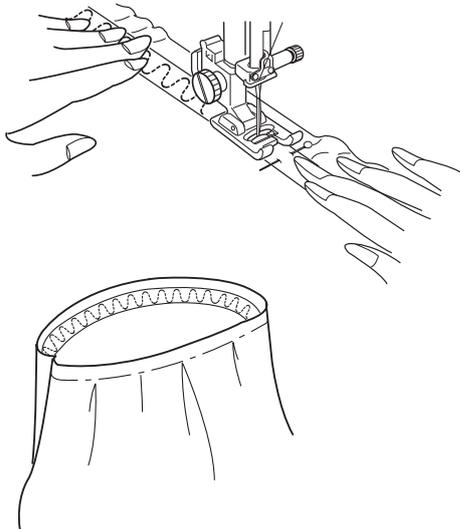
• ▽ ボタンを押すと表示されている数値が小さくなり、左針位置が右へ移動します。(模様が右へ移動します。)

## ●ゴムひも付け

**ミシンのセット**

模様 12 	画面 	押さえ  F: サテン押さえ	糸調子ダイヤル  オート
---	---	---	---

※ 模様  なども使えます。



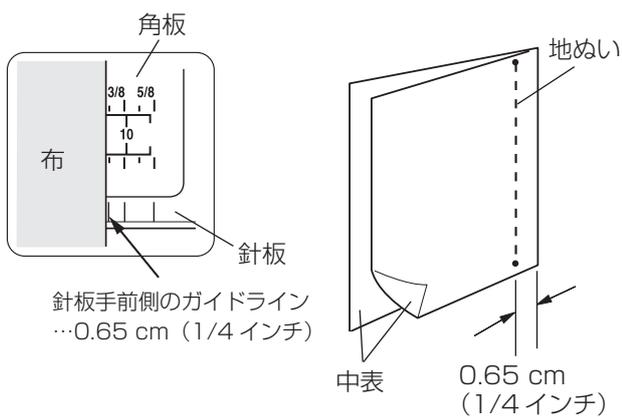
- ① 布の裏側にまち針でゴムひもを等間かくに数カ所止めます。(ゴムひもは、伸ばした状態で等間かくに止めます。)
- ② ゴムひもを布と同じ長さに両手で伸ばしながら、ゴムひもの上をぬめます。

## ●パッチワーク

**ミシンのセット**

模様 21 	画面 	押さえ  F: サテン押さえ	糸調子ダイヤル  オート
---	---	---	---

※ 模様   なども使えます。



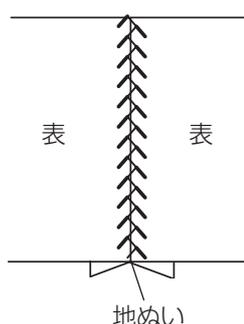
### 【地ぬい】

パッチワーク布 (ピース) を中表に合わせ、布端を針板のガイドライン 0.65 cm (1/4 インチ) に合わせてぬめます。

※ ガイドラインは、「●直線 (直線状模様) ぬい / ★針板ガイドの使い方」(29 ページ) をごらんください。

### 【飾りぬい】

布の表から地ぬいの線を中心にしてぬめます。

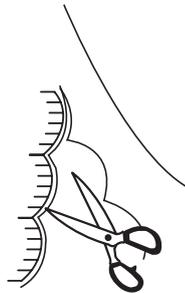


## ●スカラップ

**ミシンのセット**

模様 22 	画面 	押さえ  A：基本押さえ	糸調子ダイヤル  オート
---	---	---	---

※ 模様 <sup>26</sup> も使えます。



布の表から布端を約 1 cm 残してぬいます。  
糸を切らないように外側の布を切り落とします。

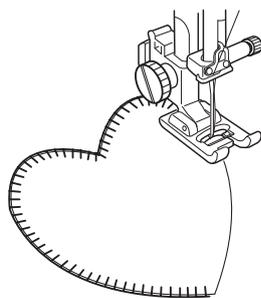
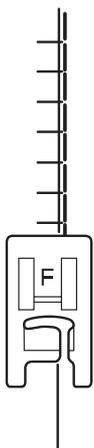
## ●アップリケ

**ミシンのセット**

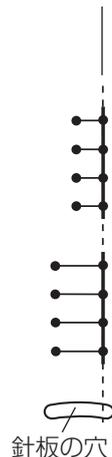
模様 19 	画面 	押さえ  F：サテン押さえ	糸調子ダイヤル  オート
---	---	--	---

※ 押さえ圧を「3」以下の弱めに合わせます。(11 ページ参照)

※ 模様 <sup>20</sup> も使えます。



右針位置 (R) 基準



アップリケ布をのり付けするか、しつけで止めます。  
模様の針位置が右のときに、アップリケ布の縁の外側に  
ささるようにぬいます。

カーブのところや方向転換するところでは、アップリケ  
布の外側に針がささった位置でミシンを停止し、針をさ  
したまま押さえ上げをあげて方向をかえるときれいに仕  
上がります。

模様 <sup>19</sup> <sup>20</sup> のぬい目のイラストの右に書かれている  
「R」は、ぬい目の幅をかえたときの基準位置です。

ぬい目の幅をかえたときに、右針位置を基準 (固定)  
に左に幅が変化します。

※ ぬい目の幅のかえ方は、「●ぬい目の幅のかえ方」  
(22 ページ) をごらんください。

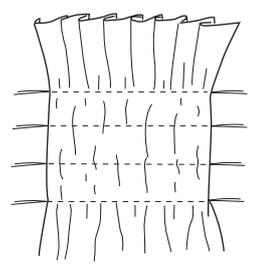
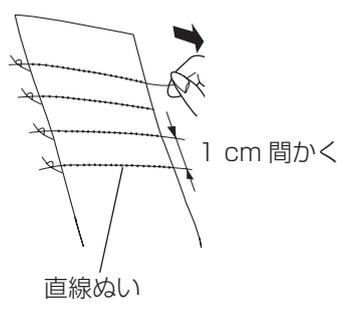
# ●スモッキング

**ミシンのセット**

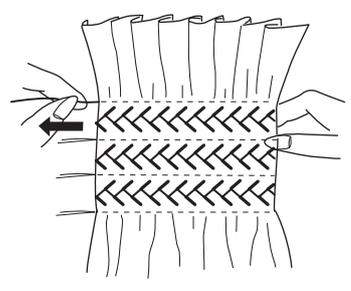
模様 21 	画面 	押さえ  F: サテン押さえ	糸調子ダイヤル  オート
---	---	---	---

※ 模様  <sup>27</sup> なども使えます。

① ② ③



④



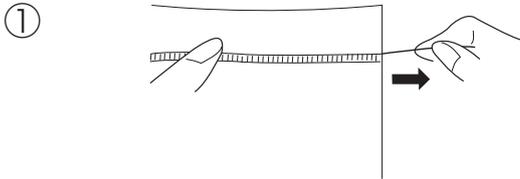
やわらかく、うすい生地の布を使用してください。  
完成サイズの約3倍の幅の布を用意してください。

- ① 上糸と下糸を押さえの下から向こう側に約10 cm 引き出しておきます。
- ※ 下糸を針板の上に引き出す方法は、「◎ぬう前の準備 / ●下糸を針板の上に引き出す場合」(21 ページ) をごらんください。
- ② 糸調子を「1」にし、ぬい目のあかさ「3.0」～「5.0」の直線を1 cm 間かくで数本平行にぬいます。
- ③ 上糸と下糸を布の片側で結び、反対側から下糸を引いてひだをよせ、上糸と下糸を結びます。
- ④ 糸調子を「オート」の位置にもどし、模様  <sup>21</sup> を選んで、直線ぬいと直線ぬいのあいだにぬいます。模様をぬったあと直線ぬいの糸を抜き取ります。

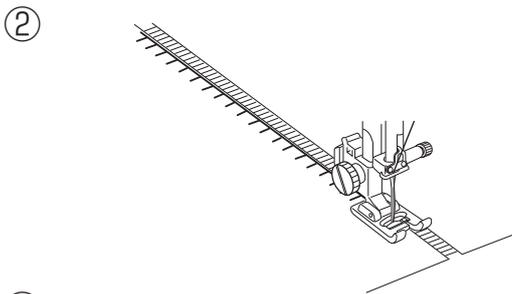
## ●フリンジ

**ミシンのセット**

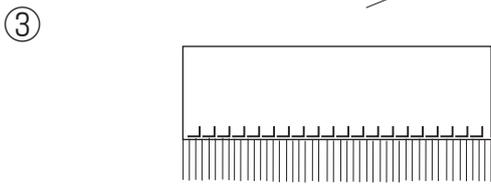
模様 20 	画面 	押さえ  F: サテン押さえ	糸調子ダイヤル  オート
--------------	--------	----------------------	--------------------



① フリンジのたばになる部分の織り糸を 1 ～ 2 本抜き取ります。



② 織り糸を抜いた上をぬいます。



③ フリンジにする部分の織り糸を全部抜き、ふさを作ります。

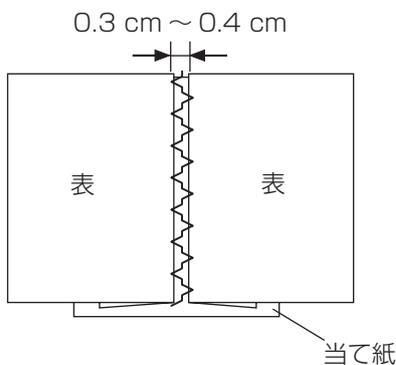
※ 模様 のぬい目のイラストの右に書かれている「R」は、ぬい目の幅をかえたときの基準位置です。  
「●アップリケ」(50 ページ) をごらんください。

## ●ファゴティング

**ミシンのセット**

模様 23 	画面 	押さえ  F: サテン押さえ	糸調子ダイヤル  オート
--------------	--------	----------------------	--------------------

※ 模様 も使えます。



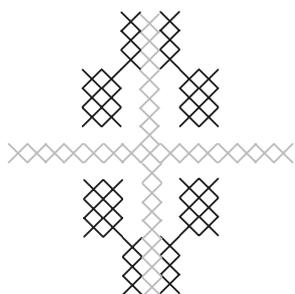
① 布端と布端の間かくを 0.3 cm ～ 0.4 cm あけて、下に当て紙を置きます。

② 布の表から、間かくの中央を中心にしてぬいます。

③ 当て紙を取ります。

## ●クロスステッチ

ミシンのセット			
模様 24 × ×	画面 	押さえ  F：サテン押さえ	糸調子ダイヤル  オート



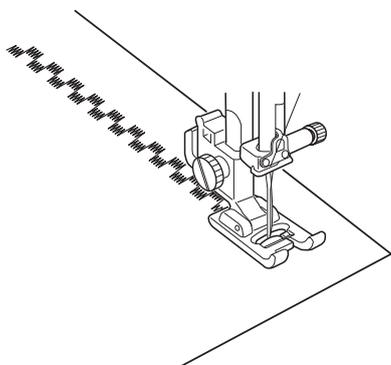
刺しゅうによく使われるクロスステッチができます。

図案の中を一定の方向にそろえてぬいます。

## ●密着模様ぬい

ミシンのセット			
模様 25 	画面 	押さえ  F：サテン押さえ	糸調子ダイヤル  オート

※ 模様 <sup>26</sup> も、密着模様です。



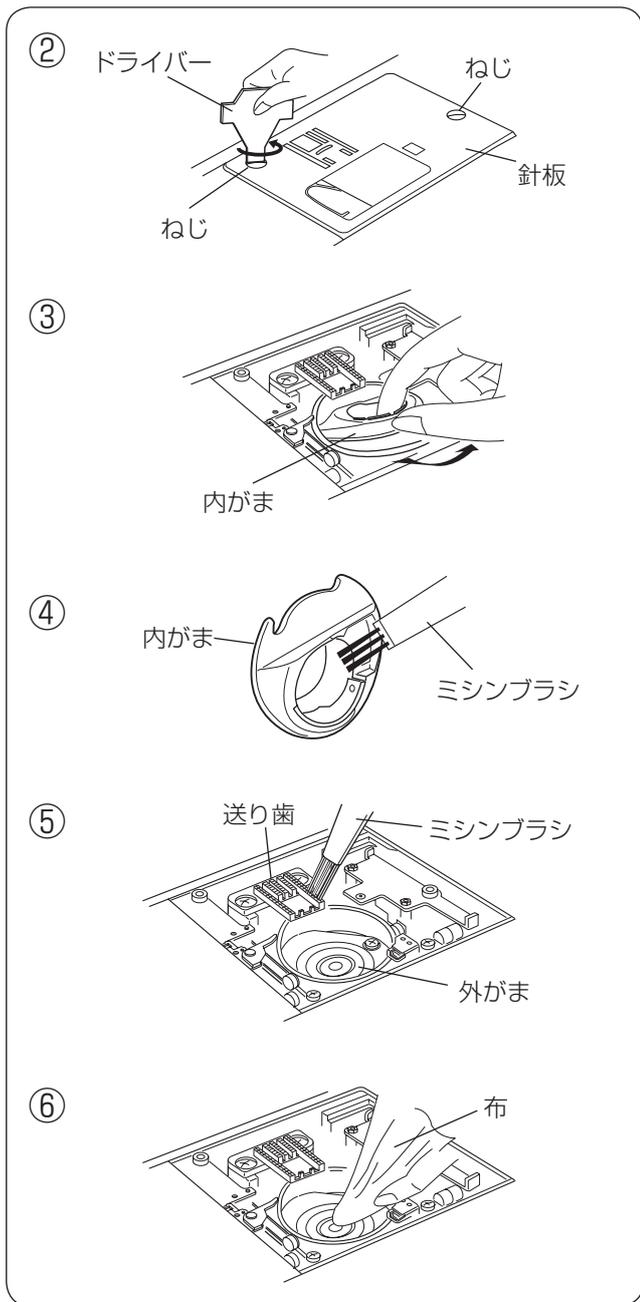
密着模様は、ぬい目の細かい飾り模様です。

ぬい目のあかさモードであらさを小さくすると、ぬい目がつまって布を送らなくなることがありますので、必ず試しぬいをして確認をしてください。

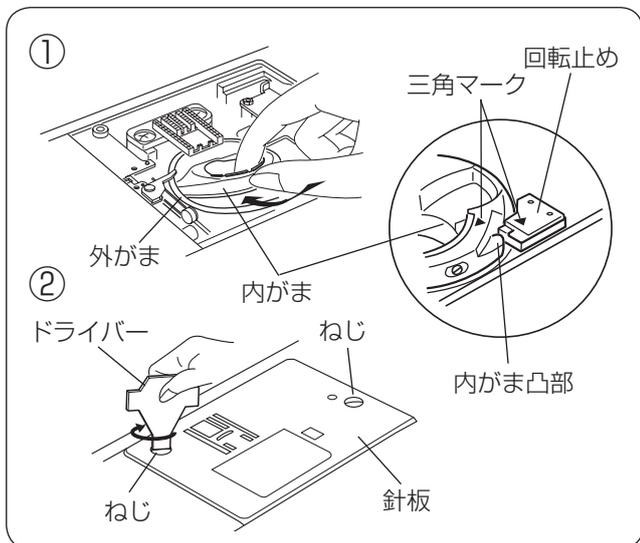
※ 布が縮む場合は、裏に芯地を貼ってください。

## ◎ミシンのお手入れ

### ●かまと送り歯の掃除



### ●内がまと針板の組み付け



### ⚠ 注意

- お手入れのときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 説明されている場所以外は、分解しないでください。感電・火災・けがの原因となります。

① 針と押さえホルダーを外し、角板を外してボビンを取り出します。

② ねじ（2個）を外し、針板を外します。

③ 内がまの手前を上へ引きながら外します。

④ 内がまを付属のミシンブラシで掃除し、やわらかい布で軽くふきます。

⑤ 送り歯のごみをミシンブラシで手前に落とし、さらに外がまを掃除します。

⑥ 外がまの中央部をやわらかい布で軽くふきます。

※ ミシンブラシで掃除しにくい乾いた糸くずやほこりは、掃除機などで吸い取ってください。

### お願い

- ミシンの使用頻度が高い場合、上記お手入れでは取りのぞけない部分に糸くずやほこりがたまり、ぬい不良の原因となることがあります。使用頻度が高い場合、定期的にミシンの掃除をすることをおすすめします。お買い上げの販売店にご相談ください。
- ミシンへの注油は出荷時に十分行っています。ご自身での注油は行わないでください。故障の原因となります。

① 内がまを取り付けます。

内がまの三角マークと回転止めの三角マークを合わせ、内がまの凸部が回転止めの左側にくるように取り付けます。

※ 内がまを取り付けたあと、はずみ車を手でゆっくり手前にまわし、外がまがスムーズにまわることを確認してください。

② 針板を取り付け、ねじ（2個）をドライバーでしっかりしめます。

※ お手入れが終わったら、忘れずにボビン、角板、押さえホルダー、押さえ、針を取り付けてください。

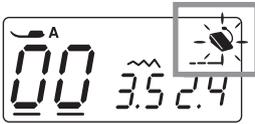
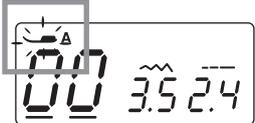
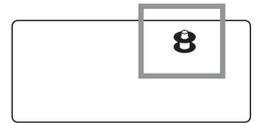
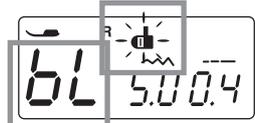
# ◎こんなときには

## ●ブザー音の種類

ブザー音	内 容
ピッ	正しい操作をしたときの受付音です。
ピピピー	ボタンホールぬい完了などの終了音です。
ピピピッ	不正な操作をしたときの禁止音です。
ピー	ミシン異常時の警告音です。

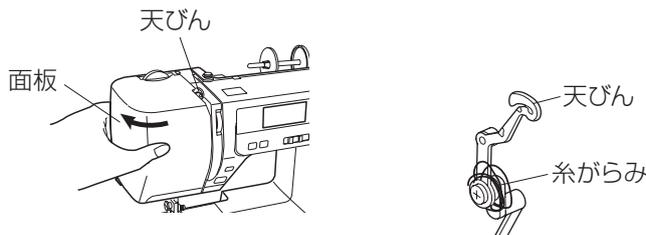
## ●メッセージ画面が表示された場合

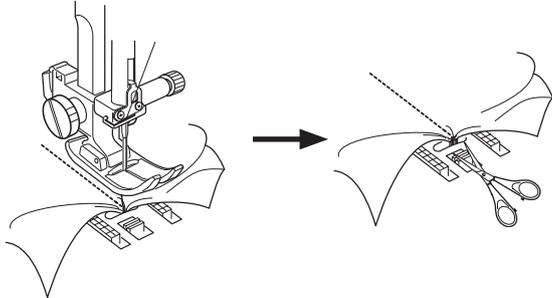
禁止音や警告音とともに下記メッセージ画面が表示された、または表示されている場合、直し方にしたがってください。

表示	原因	直し方
	<ol style="list-style-type: none"> <li>フットコントローラーを接続した状態でスタート/ストップボタンを押したときに表示されます。</li> <li>フットコントローラーが壊れているときに表示されます。フットコントローラー表示が点滅します。</li> </ol>	<p>スタート/ストップボタンを使用する場合、フットコントローラーの接続を外します。</p> <p>お買い上げの販売店へご連絡ください。</p>
	押さえがあがった状態で、ミシンをスタートさせたとき、返しぬいボタンを押したときに表示されます。	押さえ上げをさげて、操作を行ってください。
	糸巻き軸を下糸巻き位置にセットしたときに表示されます。	糸巻き軸を元の位置（左側）にもどすと表示が消えます。
	<p>ボタンホール切りかえレバーをさげないでボタンホールを少しぬうと表示されます。</p> <p>※ 模様番号表示が「bL」表示にかわり、ボタンホール切りかえレバー表示が2秒～3秒点滅します。</p>	ボタンホール切りかえレバーをさげて、再スタートします。
	<ol style="list-style-type: none"> <li>安全装置の作動によりミシンモータが緊急停止したときに表示されます。</li> <li>糸巻き中に糸がらみなどで糸巻き軸がロックされると表示されます。</li> </ol>	<p>緊急停止後15秒間ミシンは動きません。</p> <p>糸がらみなどがある場合、電源スイッチを切り、糸を取り除いてください。</p> <p>電源を切り不要な糸を取り除いてください。</p>

## ● ミシンの調子が悪いときの直し方

調子が悪い場合	原因	直し方
上糸が切れる	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 上糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外のところからみついている。</li> <li>2. 上糸調子が強すぎる。</li> <li>3. 針が曲がっていたり、針先がつぶれていたりする。</li> <li>4. 針の付け方がまちがっている。</li> <li>5. 針に対して糸が太すぎるか細すぎる。</li> <li>6. ぬい始めに上糸を引き出して、押さえで押さえていない。</li> <li>7. 糸がかまなどにかからまっている。</li> <li>8. 糸こまに上糸が引っかかっている。</li> </ol>	<p>19 ページ参照</p> <p>12 ページ参照</p> <p>15 ページ参照</p> <p>15 ページ参照</p> <p>15 ページ参照</p> <p>24 ページ参照</p> <p>54 ページ参照</p> <p>糸こま押さえを付ける</p>
下糸が切れる	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 下糸の通し方がまちがっている。</li> <li>2. 内がまの中にごみがたまっている。</li> <li>3. ボビンにきずがあり、回転がなめらかでない。</li> <li>4. 下糸の巻き方がゆるい。</li> </ol>	<p>18 ページ参照</p> <p>54 ページ参照</p> <p>ボビンを交換する</p> <p>17 ページ参照</p>
針が折れる	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。</li> <li>2. 針止めねじのしめつけがゆるんでいる。</li> <li>3. 布に対して針が細すぎる。</li> <li>4. ぬい終わったとき布を手前に引いている。</li> <li>5. 模様合った押さえを使用していない。</li> </ol>	<p>15 ページ参照</p> <p>15 ページ参照</p> <p>15 ページ参照</p> <p>布を向こう側に出す</p> <p>指定の押さえに交換する</p>
ぬい目がとび	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。</li> <li>2. 布に対して針と糸が合っていない。</li> <li>3. 伸縮性のある布や目とびのしやすい布地などのとき、ブルー針（オプション）を使っていない。</li> <li>4. 上糸のかけ方がまちがっている。</li> <li>5. 品質の悪い針を使用している</li> </ol>	<p>15 ページ参照</p> <p>15 ページ参照</p> <p>15 ページ参照</p> <p>19 ページ参照</p> <p>針を交換する</p>
ぬい目がしわになる	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 上糸調子が合っていない。</li> <li>2. 上糸・下糸のかけ方がまちがっていたり、糸が必要以外の部分からみついたりしている。</li> <li>3. 布に対して針が太すぎる。</li> <li>4. ぬい目のあらかさが布に対してあらかすぎる。</li> <li>5. うすい布をぬうとき、芯地を使っていない。</li> <li>6. 押さえ圧が合っていない。</li> </ol>	<p>12 ページ参照</p> <p>18、19 ページ参照</p> <p>15 ページ参照</p> <p>ぬい目を細かくする</p> <p>芯地を貼る</p> <p>11 ページ参照</p>
ぬいずれがおこる	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 押さえ圧が合っていない。</li> </ol>	<p>11 ページ参照</p>
布送りがうまくいかない	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 送り歯に糸くずがたまっている。</li> <li>2. ぬい目が細かすぎる。</li> <li>3. 送り歯があがっていない。</li> </ol>	<p>54 ページ参照</p> <p>ぬい目をあらくする</p> <p>13 ページ参照</p>
ミシンが動かない	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電源のつなぎ方がまちがっている。</li> <li>2. かまに糸やごみがたまっている。</li> <li>3. ボビンに糸がかからまっている。</li> <li>4. 押さえ上げがさがっていない。</li> <li>5. 下糸を巻いたあと、糸巻き軸が糸巻きの位置（右側）にある。</li> <li>6. 上糸が外れ、ボビンにかからまって（ガチャガチャ音がする）いる。</li> <li>7. 上糸が天びんから外れ、ほかの部品にかからまっている。</li> <li>8. フットコントローラーを接続したままでスタート/ストップボタンを押している。</li> </ol>	<p>6 ページ参照</p> <p>54 ページ参照</p> <p>ボビンの糸を確認する</p> <p>11 ページ参照</p> <p>17 ページ参照</p> <p>上糸かけを確認する</p> <p>[天びんの外れ確認]</p>  <p>上糸かけを確認する</p> <p>[からまっている糸の取り方]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 電源スイッチを切る</li> <li>2. 面板を開ける</li> <li>3. からまっている糸を取る</li> <li>4. 上糸をかけ直す（19 ページ参照）</li> <li>5. 面板をしめる</li> </ol> <p>フットコントローラーを外す</p>



調子が悪い場合	原因	直し方
ぬい目に輪ができる	1. 上糸調子が弱すぎる。 2. 糸に対して針が太すぎるか、細すぎる。	12 ページ参照 15 ページ参照
うすい布、伸縮性の布が食い込む	1. 布に対して針と糸が合っていない。 2. 左針位置でぬっていない。	15 ページ参照 左針位置でぬう
布裏で糸がからまる	1. 上糸のかけ方がまちがっている。 〔手順 2. の図〕 	[からまっている糸の取り方] 1. 電源スイッチを切る 2. 押さえ上げと針をあげ、ハサミで布裏の糸を切る 3. 針板を外す (54 ページ参照) 4. ボビン、内がまを外し、からまっている糸を切る (16、54 ページ参照) 5. ボビン、内がま、針板を取り付ける (18、54 ページ参照) 6. 上糸をかけ直す (19 ページ参照)
上糸が抜ける	1. 上糸のかけ方がまちがっている。 2. ぬい始めに上糸を引き出して、押さえで押さえしていない。	19 ページ参照 24 ページ参照
かまに糸がからまる	1. 上糸のかけ方がまちがっている。 2. かまにキズがある。 3. 内がまの入れ方がまちがっている。	19 ページ参照 かまの交換 54 ページ参照
音がして糸がからまる	1. 天びんの糸穴に糸が入っていない。 2. 上糸のかけ方がまちがっている。	19 ページ参照 19 ページ参照
フットコントローラーをふみ込んでも動かない	1. 画面にフットコントローラーの表示が出ないうちにフットコントローラーをふんだ。  フットコントローラーの表示 (点灯) 2. フットコントローラーのプラグが差し込まれていない。	フットコントローラーの表示が出たあとにフットコントローラーをふむ  6 ページ参照
糸通しができない	1. 針が上にあがっていない。 2. 針の付け方がまちがっているか、針が曲がっている。	20 ページ参照 15 ページ参照
糸通した後、糸通しレバーがいちばん上までもどらない	1. すべりにくい糸を使っている。	糸通しレバーを手でゆっくり上までもどす
ボタンホールがうまくぬえない	1. 布に対してぬい目のあさが合っていない。 2. 伸縮性のある布のとき、芯地を使っていない。 3. ボタンホール切りかえレバーがさがっていない。	41、42 ページ参照 芯地を貼る 38、40 ページ参照
音が高い	1. かまの部分に糸くすが巻きこまれている。 2. 送り歯にごみがたまっている。 3. 電源投入時、制御モータからわずかな共鳴音が出る。	54 ページ参照 54 ページ参照 異常ではありません
ぬい終わりに下糸が二重に出てくる	1. 針が上まであがっていない。	上下停針ボタンを押して針をあげる
ぬい目に下糸が出る	1. ボビンのセットがまちがっている。 2. 糸こまのセットがまちがっている。 3. 上糸のかけ方がまちがっている。 4. 上糸調子が強すぎる。 5. ジャノメのボビンを使用していない。	18 ページ参照 16 ページ参照 19 ページ参照 12 ページ参照 16 ページ参照
ぬい始めの糸がらみ	1. 上糸のかけ方がまちがっている。 2. ぬい始めに上糸を引き出して、押さえで押さえしていない。	19 ページ参照 24 ページ参照

調子が悪い場合	原因	直し方
ボビンに下糸がうまく巻けない	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 下糸のかけ方がまちがっている。</li> <li>2. ボビンの上、または下に巻きが片寄っている。</li> </ol> <div style="text-align: center;"> <p>〔上に片寄っている〕      〔下に片寄っている〕</p> <p>調整ねじを右にまわす      調整ねじを左にまわす</p> <p>調整ねじ (糸巻き糸案内)</p> </div>	18 ページ参照 調整ねじをまわす  <b>注意：</b> 調整ねじをまわす範囲は、1 回転までにしてください。部品が外れます。
模様がきれいにぬえない	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ボビンのセットがまちがっている。(ボビンの入れる方向がまちがっている・下糸が内がまのばねに入っていない。)</li> <li>2. 糸こまのセットがまちがっている。</li> <li>3. 上糸のかけ方がまちがっている。</li> <li>4. 上糸調子が強すぎる。</li> </ol>	18 ページ参照  16 ページ参照 19 ページ参照 12 ページ参照

※ 静かな部屋で使うと「ウィーン」という小さな音がする場合があります。内部の制御モータから発生しているもので、ぬい作業上はとくに問題はありません。

※ 長時間使うと画面や操作ボタンおよびそのほかのボタン付近の温度が少し高くなります。内部の制御部の発熱によるもので、ぬい作業上はとくに問題はありません。

※ 外観の細かい線のように見える部分は、樹脂を形成するときに発生するウェルドラインと呼ばれるものです。場所によっては目立つ場合もありますが、強度上とくに問題はありません。

♣ ✕毛 ♣

ミシンの疑問やジャノメ最新情報はこちらからご確認できます。



ジャノメ HP  
FAQ ページ



ジャノメ公式  
Instagram



ジャノメ公式  
YouTube チャンネル

仕 様	
使用電圧	100 V 50 / 60 Hz
消費電力	35 W
外形寸法	幅 406 mm ×奥行き 177 mm ×高さ 302 mm
質量(本体)	6.4 kg
使用針	家庭用 HA X 1
最高ぬい速度	毎分 700 針 フットコントローラー使用時 毎分 820 針 (直線模様)

仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますのでご了承ください。

## 修理サービスのご案内

- お買い上げの際、販売店でお渡しする保証書は内容をお確かめの上、大切に保管してください。
- 無料修理保証期間内、およびそれ以降の修理につきましても、お買い上げの販売店が承りますのでお申し付けください。

## 修理用部品の保有期間

- 当社は動力伝達部品、および縫製機能部品を原則として製造打ち切り後 8 年間を基準として保有し、必要に応じて販売店に供給できる体制を整えています。

## 無料修理保証期間経過後の修理サービス

- 取扱説明書にしたがって、正しいご使用とお手入れがなされていれば、無料修理保証期間を経過したあとも、修理用部品の保有期間内はお買い上げの販売店が有料で修理サービスをします。  
ただし、次のような場合は修理できないときがあります。
  1. 保存上の不備または誤使用により不調、故障または損傷したとき。
  2. 浸水、冠水、火災等、天災、地変により不調、故障または損傷したとき。
  3. お買い上げ後の移動または輸送によって不調、故障または損傷したとき。
  4. お買い上げ店または当社の指定した販売店以外で修理、分解、改造をしたために不調、故障または損傷したとき。
  5. 職業用等過度なご使用により不調、故障または損傷したとき。
- 長期間にわたってご使用された場合の精度の劣化は、修理によっても元通りにならないことがあります。
- 有料修理サービスの場合の費用は必要部品代、交通費、およびお買い上げ店が別に定める技術料の合計になります。

## お客様の相談窓口

修理サービスについてのお問い合わせやご不審のある場合は下記にお申しつけください。  
お問い合わせの際には、ミシン本体の正面、もしくは保証書にある商品名を控えてください。

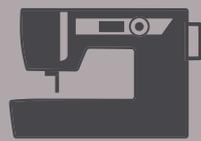
株式会社ジャノメ

〒193-0941 東京都八王子市狭間町 1463 番地

お客様相談室 TEL. 0120-026-557 (フリーダイヤル)  
042-661-2600

受付…平日 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00  
(土・日・祝日・年末年始を除く)

メールでのお問い合わせは、ホームページ <https://www.janome.co.jp>  
問合せフォームをご利用ください。



JANOME Corporation

809-851-533